

## 走り新鮮。*champ 80* 新発売!

特集 きわだつ個性の同クラス・2モデルで  
スポーツ市場を拡大!



# Y.E.S.S.が広げる ツーリング・ワールド

## ジェット・ツーリング・システム

## フェリー・ツーリング・システム

ジェットでひとつ飛びに

あるいは、フェリーでのんびり、ゆったり  
オーシャン・クルージングを楽しみながら  
バイクとともに北海道へ  
そして、思う存分北の大地のツーリング  
をエンジョイする。

——モーターサイクルのもっともベーシ  
ックな楽しみ「ツーリング」のイメージ  
が、いまだ大きく変わろうとしています。

モーターサイクル・ユートピア「北海  
道」を目的地に、Y.E.S.S.がJALや阪  
急交通社との提携によって開発してきた  
「ジェット・ツーリング」や「フェリー・  
ツーリング」がこの夏のツーリングの楽  
しみ方を一変させているからです。

東京、大阪、福岡の3カ所と千歳を結  
ぶ「ジェット・ツーリング」は、最も手  
軽な料金で、しかも一人でも利用できる  
北海道ツーリングのスカイルートとして  
システム化を完成。また、この夏からス  
タートした「フェリー・ツーリング」も、  
名古屋、東京、大洗（茨城）仙台の各地  
と苫小牧を、また敦賀と小樽を、それぞ  
れ結ぶ5つのコースを設定。そしてこち  
らもY.E.S.S.ならではの超エコノミーな  
料金が、お客さまの人気を集めています。



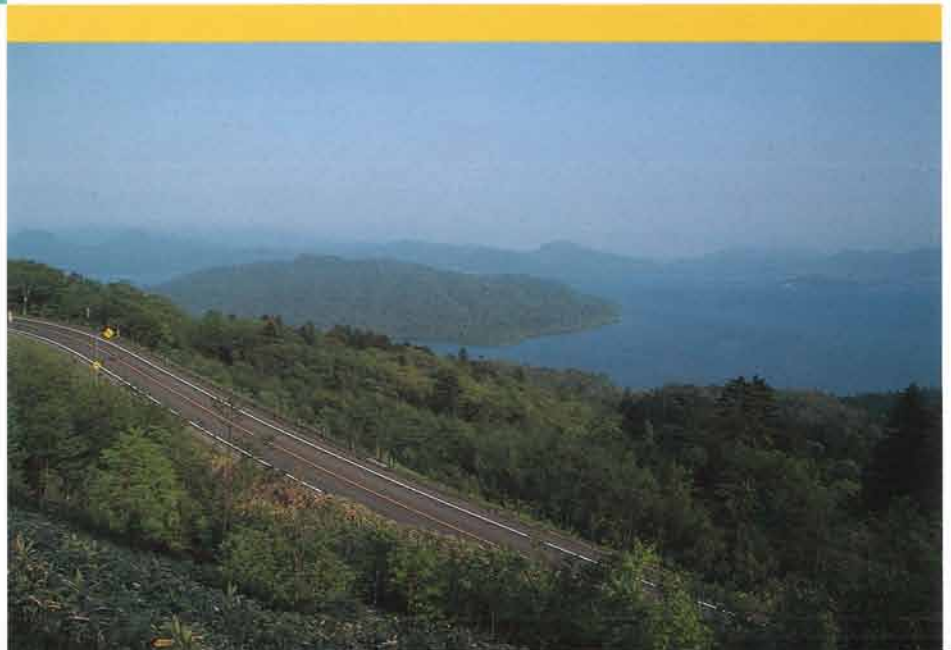
一方、こうした本土からのツーリング・  
ライダーを迎える北海道でも、函館、札幌、  
岩見沢、帯広、釧路、北見、旭川……各  
地のY.S.P.さんがオンロード、オフロー  
ドの穴場情報から温泉、イベント、食べ  
どころ・休みどころ、キャンプや宿泊ま  
での情報提供やバイク10番、バイク  
119番を展開中。9月14日(日)と15日  
(祝)の連休には、「バイクビレッジ・イン・  
ニセコ」も開催して、北海道と本土のラ  
イダー同志、Y.E.S.S.仲間同志の交流も  
はかられることになっています。



Y.E.S.S.ジェット・ツーリングは忙しい社会人にと  
くに好評



船上でゲームなども楽しみながら、フェリーツー  
リングの魅力は、なんととってもゆったりムード



# Touring Land Hokkaido



バイクビレッジを通じて北海道のY.E.S.S.仲間との交流も



「連日朝早くから北海道を存分に走りまわってきました」(6月にY.E.S.S.ジェット・ツーリングで北海道ツーリングを満喫された和歌山県「バイクスター」のみなさん。右から3人が菅田彰彦社長)



- カラー：シルキーホワイト/ソリッドエンデュランスブルー  
グリタリングブラック/ログロスグレー
- 標準小売価格：14万9千円（北海道、沖縄は3千円高）

# champ 80

チャンプ・エイティ

## 走り新鮮。 新登場!

シンプル、軽量・コンパクトなボディに80cc、7馬力エンジンを搭載——抜群のパワー・ウェイト・レシオで定評の“走りのチャンプ”をさらにきわ立たせた「チャンプ80」が、8月1日より新登場します。

最高速50km/hをはじめ、80cc・原付二種ならではのメリットを最大限に生かしながら、あえて1名乗車として、よりハイレベルな走りを求めるスプリント・スクーターユーザーの上級志向に応えた「チャンプ80」。

代替、増車のヤングユーザーを中心に、どうぞ幅広いお客さまに積極的におすすめください。

### チャンプ80の主な特徴

① 乾燥重量59kgの軽量ボディに、7PS/6500rpmのハイパワーエンジンを搭載。8.85kg/PS(装備重量時)のパワー・ウェイトレシオで、一段とシャープな走りを展開します。

- ② ハイグレードなVベルトや外気導入強制空冷システムを採用した駆動系、本格的セリアーニタイプの高剛性フロントフォーク、強力なストッピングパワーの95mm大径フロントブレーキ、さらに前後4PRタイヤなどハイパワーエンジンにあわせて“走る、曲がる、止る”走りの基本機能を大幅に高めています。
- ③ ゆとりのフットスペースと快適なソフトタッチレザーの大型シートで、ライディングポジションの自由度もアップ。
- ④ フロント8インチホイールが生み出す軽快、俊敏なハンドリング。
- ⑤ 見やすい角型バックミラーを左右標準装備。
- ⑥ スポーツ感覚あふれる大型メーター。
- ⑦ 被視認性の高いビルトイン・フラッシュャーランプ一体型の大型テールランプ。
- ⑧ 走りのイメージを強調したフロントノーズフェンダーと便利なハンドル・スタンド。



### ■チャンプ80仕様諸元

- 全長1555mm ●全幅605mm ●全高955mm ●シート高690mm
- 軸間距離1100mm ●最低地上高95mm ●乾燥重量59kg ●舗装平坦路燃費70km/ℓ (50km/h) ●最小回転半径1.6m
- 制動停止距離7.5m (35km/h) ●エンジン2サイクル・ピストンリードバルブ・単気筒・79cc ●内径×行程49×42mm ●圧縮比6対1 ●最高出力7PS/6500rpm ●最大トルク0.80kg-m/6000rpm ●始動方式セル・キック併用式 ●潤滑方式ヤマハオートループ ●オイルタンク容量0.8ℓ ●燃料タンク容量3.5ℓ ●キャブレターY14P ●点火方式CDI ●点火プラグBP6HS、BP7HS、BP8HS、W20FP-U、W22FP-U、W24FP-U(出荷時装着プラグはBP7HS) ●バッテリー容量12V4Ah ●1次減速(比)ギヤ(3.154) ●2次減速(比)ギヤ(2.818) ●クラッチ乾式内拡重錘式 ●変速機Vベルト式無段変速 ●変速比2.200~0.860 ●フレーム鋼管アンダーボーン ●キャスト26"30 ●トレール69mm ●タイヤ(前)3.00-8-4PR(後)2.75-10-4PR ●ブレーキ機械式ドラム ●懸架方法(前)テレスコピック(後)ユニットスイング ●緩衝方法(前後とも)コイルスプリング ●ヘッドランプ12V25W/25W ●テールランプ12V5W ●ストップランプ12V21W ●フラッシュャーランプ12V8W

特集

# きわだつ個性の同クラス・2モデルで スポーツ市場を拡大!



TZR250が圧倒的な人気をつつける中で、7月から登場のニューRZR250Rが、眼の肥えたお客さまたちのきわめて高い評価を集めています。

同様に400ccでもFZR400Rのホットな話題の中で、FZR400Rに依然として多くのヤングから絶大な信頼が寄せられています。

このように、技術の粋を集めた最先鋭モデルとともにその一方で、モーターサイクルの基本形としてしっかりと熟成を重ね、「名車」の価値を日毎に高めていく、ベシツクなモデルの存在がいま大きくクローズアップされています。

RZR250RとTZ  
R250、FZR400  
RとFZR400

ご販売におけるこれらの個性的な同クラス2モデルの正確な位置づけと、お客さまに合わせた適確な売り分けによる市場拡大、これこそこれからのスポーツバイク商戦の最大の焦点。そこで今月は、実際のユーザーと販売店さんの声を中心に、この売り分けを考えてみました。

## 細分化するスポーツユーザーのニーズに きめ細かく対応する4モデル

「RZ250RとTZR250。また、FZ400RとFZR400」——この同クラスにありながら似ていて、異なるモデルたちのポジショニングを考えると、まず頭に入れておきたいのはRZ250RもFZ400Rもデビュー当時は時代の最先端を行く最新鋭モデルであったということです。

それが、時の流れの中でしだいにそのポジショニングを変え、基本機能のしつかりした信頼のモデルとしてロングセラーへの道をしつかりと歩み始めているというわけです。もちろん、これは確かな商品性とそれによる長年の販売実績があって実現されたこと。

そしてこの「RZとTZR」「FZとFZR」「ベシックなモデルと最先端のモデル」と

いう2本立ての商品ラインアップは、高性能であり高価格な最先端のモデルに対してシンプルでいて高度なコストパフォーマンスを備えたベシックなモデルを設定することによって、多様化するスポーツバイユーザーのニーズに、よりきめ細かく対応してスポーツバイク市場全体の健全な拡大を狙ったものであることはいまでもありません。

ここでは、このラインナップをより明確に理解し、お客さまに対する最も有効なアプローチを展開していただくために、RZ250RとFZ400Rの2台のベシックなモデルを中心に、実際のユーザーの声をまじえながらご紹介しましょう。

## ロングライフモデルとして定着した 名車たち

商品の位置づけについても少し考えてみましょう。販売店のみなさまは先にご承知のこととは思いますが、ナゼRZ250RやFZ400Rは、同クラスでありながら、よりグレードアップされた機能をもつTZR250やFZR400の登場にもかかわらず、さらに熟成を重ねその存在を逆にきわ立たせているのか、ということ。自動車や家庭電化製品など新技術優先型商品では、新型が登場するとそれまでの商品は市場から姿を消してしまうのが通例だからです。

同じような新技術優先型の商品でありながらスポーツバイクが自動車や家庭電化製品と決定的に異なるのは、趣味性の高さです。しかも操作や走りのフィーリングなど微妙な感覚的要素までが問題にされるといふことです。つまり乗る人の使い方やライディングのテクニックによって同じ1台のモデルも、さまざま



「このFZ400Rを乗りこなして、FZR400へ!」という関さんは、アメリカン・フットボールでも活躍するスポーツマン

まな価値を発揮するという事です。ここにこそ、技術の粋を集めた最新端のモデルに対して、時代を超えていつまでも色あせることなくその個性を発揮させるモデル、「名車」といわれるロングライフモデル存在の理由があるのです。ヤマハSR400/500を思い浮かべていただければ、これは一層明快でしょう。

もちろん、すべての商品がロングライフモデルとして存在しつづけられるわけではありません。商品寿命(ライフサイクル)は、1

00年前にはひとつのヒット商品が30年も売れつづけたといわれるのに対して、60年代には5年、70年代で3年、そして現在ではどんなに魅力的な商品でも2年といわれるほど短命化し、半年で姿を消してしまう商品さえザラに見うけられます。

こうした中で、一過性のブームに終ることなく市場に確たる位置を確立し、いつまでも支持されつづけるロングライフモデルとして存在しつづけるために、まず第1にいえることは必要にして十分な基本機能をしつかりと

「普段の使い方を考えてコストパフォーマンスを第1に選びました」と小野さん



備えていること。「名品」と呼ばれ世界中で広く愛用されているライト・ダンヒルの「有用であること、信頼性があること、優美であること、耐久性にすぐれていること、ダンヒルは最高の証しでなければならぬ」という言葉に語り尽されているとおりです。

モーターサイクルでいえば、走る、曲がる、止まるという最も基本的な機能が、完全に備わっているということ。これに耐久性、スタイルやデザインの良さ、商品性に見合ったリーズナブルな価格などが加わり、商品に対する信頼が生まれ、ロングライフ商品へと育つのです。

RZ250Rが発売以来3年、FZ400

Rも2年もの間、かわらぬ人気を集め、ベストセラーをつづけているのは、こうしたロングライフ商品としての要素をしっかりと満足させているからに他なりません。

ベーシックなモデルのベーシックとは、まさにロングライフモデルの絶対要件である基本機能の意味を表わす言葉。

そして、最先端のモデルだけでは獲得しえないユーザー層、例えば自分のテクニックを見きわめ、かつ自分の用途をふまえたベテランや、最新鋭メカニズムや高性能に気おくれしてしまうビギナーなど、幅広いユーザーをしっかりとカバーしスポーツバイク市場全体の拡大に結びつけるのが、これらのモデルに課せられた大役なのです。

## RZ250RとTZR250Rにみるユーザープロファイルのちがい

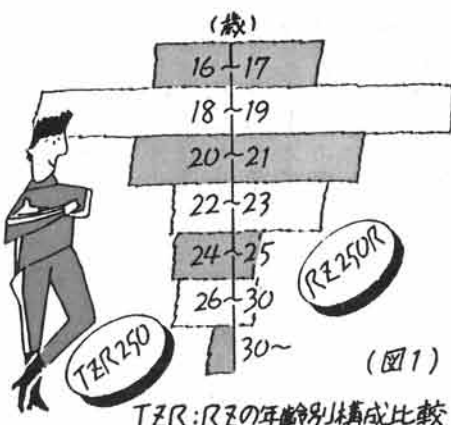
では、RZ250RとTZR250Rを例にもう少し具体的に、ベーシックなモデルと最先端のモデルの購入層のちがいをみてみましょう。(図1)

まず年齢で見ると、TZR250Rは10代と20代前半にふたつの山があり、30代も含めた幅広い年齢層のユーザーがいるのに対し、RZ250Rは10代を中心に20代前半までのヤングユーザーで圧倒的比率が占められています。これだけを見ると、昨年11月のTZR250R発売以降、RZ250Rのユーザー層はかなり限定されているようにもみえます。

しかし、このデータに購入形態を重ねてみましょう。(図2)

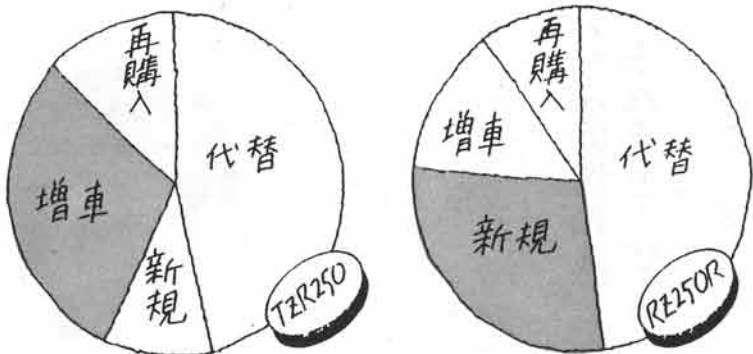
RZ250R、TZR250Rともに代替えがもつとも多くどちらも全体の半数近くを占めていますが、それ以外ではRZ250Rでは新規が、逆にTZR250Rでは増車が多いのが特徴となっています。

またこのふたつの他に、TZR250Rユーザーは、購入時に他車との比較をしていない人が多く、また比較した人も400ccモデルとの比較が多いのに対してRZ250Rユーザーは同クラスモデルと比較しているなどの



(図1)

TZR:RZの年齢別構成比較



TZR:RZの購入形態比較 (図2)

データもあります。

これらを総合してみると、TZR250Rは年齢をこえて幅広い人たちの支持を集めていること、またRZ250Rは、次ページにご登場いただいた小野さんのように、同じヤングでも自分の経験や技術にみあったモデルを選択し、風のフィリリングなど、スポーツバイク本来の楽しさをわきまえた人たちにも多く支持されていることがわかります。

そしてこの結果はそのまま、ベーシックなモデルは乗りやすさや安心感を重視するビギナーの入門用モデルとして、また最先端のモデルは経験の多いスポーツユーザーたちのより高度な要求に応えるモデルとして、市場に受け入れられていることがわかります。



鈴木社長を中央に左がFZ400Rの関さんと右がRZ250Rの小野さん(YSP小平さんの店頭で)

それでは次に、そうしたベーシックなモデルのユーザー実態をより具体的に理解するため実際のFZ400Rユーザー、RZ250Rユーザーにご登場をお願いします。お2人

## 「走り」はスポーツ、FZ400RをマスターしたらFZR400へステップアップします

関 敏治さん (19歳・会社員)

大手電機メーカーでコンピュータのパーツとなる半導体の生産にあたる関さんは熊本県出身。社員寮での独身生活をエンジョイしながらアメリカンフットボールのチームにも属して活躍するスポーツ好青年です。みるからに堅実そうな関さんのバイク歴は、17歳で原付免許を取得してスクーターに乗車、そしてこの春に教習所に通って中型二輪免許を取り、同時に初めてのスポーツバイクとして、仲間の間でも「名車」の声が高かったFZ400Rを選ばれたというわけです。

とも東京都小平市の「YSP小平」さんのお客さま。さらに同店の鈴木昇社長にもお話しをうかがいました。

さつそく、FZ400Rの選択理由からうかがいたのですが――

「寮にはバイクに乗っている先輩や友人が何人もいるんですが、彼らの話を参考に、400ccのマルチにしよう」と最初から思っていました。そこで他社の400ccマルチの2モデルとともに、もちろん発売が話題になっていたFZR400も含めて検討したんです。カタログや専門誌、それに先輩の意見を参考に自分としては冷静に選んだつもりです。まず第1に考えたのが「乗りやすい」モデルであること。初心者ですからもちろん乗りやすいといっても専門誌などをにぎわしている

高速での性能じゃなくて普段の街中での走りやすさのことです。

ですから、最新の高性能モデルでなくてもいいな、あまり先鋭的でない方がいいな、と思ってFZ400Rを選んだんです。FZは街中でも乗りやすく、それでいてハードに走りたければそれにも十分応えてくれるマシンだという話は先輩たちからもいつも聞いていましたから。ホクのような初心者でも安心して乗れるし、ある程度乗りこなせるようになって飽きないんじゃないかということで決めたんです。

もちろんスタイルも気に入っていたし、価格が手頃だということもありました(どね笑)。性能だけ、スタイルだけじゃなく総合的に見てホクが一番ふさわしいモデルがFZ400Rだと思ったということです。

現在の使用は、街乗りと月1回のツーリングとのことですが、実際に乗ってみての感想はいかがですか――

「とても満足しています。スタイルやブルーとホワイトのカラードもとても落ちついていて好感が持てるし、走りも十分。早く性能をフルに引出して乗りこなせるように上手になりたいたいものです(笑)。あと3年は乗りつづけるつもりです。なんといつても長い間売られてるモデルは、安心感がありますね」

アメリカンフットボールと同じスポーツ感覚でFZの走りを楽しまれているカンジですね。これからのバイクライフプランは――。  
「このFZ400Rが乗りこなせるようになる

## ロングセラーモデル「RZ」への信頼感 毎日の足として不足なく乗れるモデルです

小野芳幸さん (20歳・整備士)

一方、RZ250Rを選んだ小野さんは、関さん同様18歳で中型二輪免許を取得。以後初期型RZ250からスタートしてFZ400R、FZ250フェーザーそしてRZ250Rと乗りつづき、現在はFZ400Rをレ

※本特集の関連記事を15ページに掲載しました。あわせてご参照ください。



つたらFZR400にステップアップしたいなア、なんて思っています。専門誌を読んだりみんなの話を聞くとFZR400はとても速そうで、いまのホクのテクニクでは乗りこなせないと思うんですよ。社会人としての責任もありますし、無茶してケガなどできない。バイクは一生楽しめる趣味にしたいですからね」

ス仕様に改造してF3レースを、街乗りはRZ250Rを、と使い分けているマニアです。「YSP小平」さんにもよく顔をみせられるというだけに、情報も豊富な小野さんですがRZ250Rを選んだ理由から――  
「2サイクルの250ccスポーツバイクという範囲でマシンを見ると、どのメーカーのも



のもパワーユニットそのものは大差がないと思っ  
ていいです。馬力を見ても全部45馬力ですよ  
ね。その中で差と云ったら、フレームとか  
サスペンション、タイヤ、ハンドルの素材み  
たいな要素になってくるわけですが、ボク  
の公道での乗り方を考えると、あまり高級な  
ものは不要なんです。

例えばフレームですが、ボクの場合はスチ  
ールで十分、アルミフレームは一般公道では  
必要がないと思っています。もちろんレース  
とかの極限状態で走るときには、軽くて剛性  
のあるアルミフレームがいいということは知  
っています。

今のRZ250Rを買う前にTZR250  
にも試乗しましたが、結論としては同じでし  
た。確かに乗りやすく速いんですけど、今の  
ボクの使用範囲を考えるとまったくいいです  
。レースに使うわけではありませんから。

それにTZR250をRZのモデルチェン  
ジみたいと言う人がいますが、RZはRZ  
で、RZの進化したのがTZRじゃなくて、  
まったく別系統から出てきたという感じなん  
ですよ。

もちろんTZR250のすばらしさとい  
うのはボクにも十分にわかります。でもRZ2  
50Rには以前から販売されていた実績があ  
るので、エンジンなんかも完成されていて、  
信頼がおけますからね。

こうやって自分の使い方とか、マシンの装  
備や信頼性、価格などを考えていくと、RZ  
250Rは他のどの2サイクルと比べても、  
ぜったいにい得だと思っただけです。

豊富な乗車経験を持つ小野さんらしくモデ  
ル選びもシビア、クールな眼で見られていま  
すね。ではユーザーの眼から見たRZ250  
RとTZR250の併売についていかがが  
すか――

「モデルチェンジをくり返し、どんどんバイ  
クの値段が上がっていく中で、ヤマハは前の  
モデルをしっかりと残しておいてくれる、ユ  
ーザーとしてとても嬉しいですね。これはゴ  
マすりじゃなく、ボクのように何台ものバイ

クを用途に応じて使い分けてる人間には、R  
Z250RとTZR250のように幅のある  
商品構成だととても助かるんです。  
それにしても、RZ250Rは、いまの2  
スト・クォーター、レーサーレブリカの草分  
けですね。やはり名車だと思うので、いつま  
でも残して欲しいと思いますね」

以上がベシッくなモデルを選ばれた2人  
のお客さまの話ですが、初心者とマニア、  
それぞれの立場に違いがありますが、お2人  
に共通していたのは、ともにこれらのモデル  
だけが持つ高い信頼性、安心感を高く評価し  
ていたこと。関さんはFZ400Rを次の高  
性能モデルFZR400購入のための足がかり  
として、小野さんはレーシングライフをエ  
ンジョイするための日常生活の基本となるバ  
イクとしてRZ250Rを――と、それぞれ  
自分にもふさわしいモデル選択により、こ  
れからのバイクライフを広げていこうとして  
います。

## 売り分けでスポーツ需要拡大 最高に期待できるラインナップです。

YSP小平・鈴木 昇社長（東京都小平市）

RZ250RとTZR250、FZ400  
RとFZR400――このベシッくなモデ  
ルと最先端のモデルの「併売」を、スポーツ  
バイク市場拡大にどうむすびつけていくか、  
まとめとしてYSP小平・鈴木社長にうかが  
いました。

「今までにもニューモデルが出たことで消え  
ていった惜しい車種もありましたけど、今度  
のように旧型と新型という区別ではなく、は  
っきりと個性のちがう2機種という形でライ  
ンナップできるのも、やはり技術進歩のおか  
げでしょう。どのモデルも安心して売れる、  
自信を持ってお客さんに勧められます。

商売の幅がグッと広がったわけですが、売  
る側としてこのメリットを最大限に生かすの  
は、まずお客さまのニーズをしっかりとつか  
んだうえでの売り分けですね。

ただ一律に商品を並べておくだけでは、ど  
んな商品構成になってもダメ。それを積極的  
に使うユーザー開拓にむすびつけていかな  
ければ、お客さんも増やしたい、そして1人  
1人に長く乗って欲しいですからね」

具体的にはどんなことを考えられています  
か――  
「まず、お客さんのレベルを見極めるだけの  
眼をしっかりと養うことだと思います。関さ  
んのように、これから本場にスポーツバイク  
を楽しみたいというお客さんには、やはり本  
人の技術に合った無理のないバイクから勧め  
ていくべきだと思います。お客さんに対して  
初心者という区別は失礼なのかも知れませ  
んが、ベシッくなモデルである程度慣れても  
らい、それから上級モデルにステップアップ  
してもらおうほうが安全で確実に長く乗って  
もらえますからね。  
たとえばFZR400を買いに来たお客さん



にFZ400Rをすすめたとしても、先のこ  
とを考えればお客さんのためにもなるし、商  
売的にもプラスだと思います。  
今のFZ400RとFZR400、RZ  
250RとTZR250の組合せは、こう  
いった商売を展開していくための最高のもの  
じゃないでしょうか。

たしかにお客さんの価値感はずいぶん  
変化していきませんが、ベシッくなふたつの  
モデルはどちらも強烈なインパクトを持って  
市場に出てきたモデルなので、ユーザーの間  
の評価がまったく色あせしていない。いまや  
最先端のイメージこそ薄れましたが、マシン  
が持っている基本的なポテンシャルはみなさ  
ん十分に承知していますからね。

ギンギンのレーシーモデルに乗りたくて店  
に来た初心者ユーザーにすすめても、入門モ  
デルとして違和感なく受け入れられています。  
この売り分けということ以外にも、最先端  
のモデルだけでは拾いきれない人たちにベシ  
ッくなモデルを、また、ステップアップを  
考えている現ベシッくモデルユーザーたち  
のためには最先端のモデルをとっていくこと  
で、この2機種のラインナップには、スポーツ  
市場全体を広げるための組合せとして大いに  
期待しています」

■ お客さま ■

■ 登場 ■

# ボクのニューバイク、ニューヤマハ

**EXCEL**  
**YSR50**  
**FR400**  
**FZ1750**

ミント、ニューJOGについてエクセル、YSR50、FZR400、FZX750と86年新商品も勢ぞろいして、ご商売もいよいよ佳境。そこで今月は、さっそくこれら話題のニューモデルのお客さま方にご登場ねがいました。購入動機や満足度、実際のユーザーのみなさんの話しには、セールスの貴重なヒントがいっぱいです。

## EXCEL 高い実用性とファッショニティ そして力強い走り エクセルは魅力いっぱい

■ 森 明弘さん (20歳・大学一年、東京都世田谷区)

千葉県の実家を離れ下宿しながら大学に通う森さん。実家ではお母さんと共有でスクーターを使っていました。

「そのころはスクーターの有難味というのを感じないで使っていたんですね。ところが大学生になって1人で暮らしてみると、スクーターはもう絶対に生活必需品なんです」

いまや大学生にとってスクーターはつまり速い、安い、確実な通学の足、おまけにファッションナブルなスポーツ・グッズ、遊びの足というわけです。

「通学といっても体育などは遠く離れた郊外のグラウンドでの授業ですからね。交通手段が絶対に必要なんです。といってクルマではいくらアルバイトをしても追いつきませんしネ……(笑)」

さて、こうした動機でスクーターに乗る森

さん、それだけにスクーターを選ぶ目もシビアです。

「高校生は、馬力をいちばん重視してスクーターを選ぶんじゃないですか？　そして自分の好みのカラーに塗り変えたり、ステッカーを貼ったり、カラーグリップにしたり、チャンバーをつけたり、まさにスポーツバイクと同じように楽しんでいきますよネ。でもボクは第1に高い実用性があること、そして次にファッション性がある。もちろんパワーも十分にネ……そんなスクーターが欲しかった」

高校生と大学生でガラリとちがうスクーターの選択基準。「ボクの考えは、大学生に共通したものじゃないですか」とも森さん。

「実用的というのは燃料タンクの容量と燃費それにインナーボックスやキャリアなどの積載能力が中心。それと自分のファッションと



マッチしたスタイリングと、カラーリングのモデルがあるか、馬力があるか……これさえ満足できれば多少値段は高価でも購入してしまいますね」

さてこうした森さんの眼にまさにジャストフィットしたのが、「男のしなやかな足」エクセルというわけだ。

「広告で最初に見たとき高い質感がとても印象的だったんです。それに4・5ℓ入りの燃料タンク、5・8馬力のパワー、おまけにトランクも標準装備でね、すぐに気に入ってしまいました」

では、実際の大学生活で使用したエクセルはいかがでしょう？

「走行中の加速（追越し加速）なんかいまの

# YSR50 ツーリングに、レースに、スポーツバイクで火をつけたYSR50

新感覚のスポーツ・ライディングの世界を提供して発売と同時に人気沸とうのYSR50。スクーターやスポーツバイクユーザーの「増車」あるいは四輪ドライバーの「プレイ・バイク」と、ヤングからアダルトまで予想をはるかに越えた反響が寄せられています。ここに紹介する3人も、発売直後にそろってYSRユーザーになられたみなさんです。

柿田哲男さん（19歳・専門学校2年、名古屋瑞穂区）は、スクーターからの「ステップ・アップ」ユーザー。もっと走りを楽しみたいと、ギヤ付き、オートバイタイプの50ccを捜していた所へ、このYSR50が発売された。先に購入されたというわけだ。

「昨年9月に原付免許をとってスクーターに乗り始めたんです。それでだんだん「2輪」の楽しさがわかってきて、ステップアップしたいなって思ってた矢先きにYSR50が発売

スクーターの中じゃ一番じゃないですか。先日もスプリント・スクーターを持っている友人が、このエクセルに乗って力づよさにびっくりしていたくらいですからね。

それに、大型のシートなので座り心地が良くて疲れなんでしょう。よくどこに座っても落着かないシートのスクーターもありましてけどエクセルは格別です」

と大満足の表情で話してくれました。「このエクセルは大学生活の足として4年間は乗っていたい、同時に中型二輪免許を取ってSRX400を持つのが夢」とも。エクセルとSRX400、テイステイな2台のヤマハが、森さんのキャンパスライフを彩るのも、そう遠いことではなさそうです。

されたんです。

走りを楽しい2サイクル、しかもオートバイタイプのギヤ付、考えていた通りのバイクですし、おまけにヤマハワークスマシンの縮小版のようなスタイル、もう言うことなしです。街を走っていると周りの人がみんな振り返ります。小さくても存在感、主張のあるバイクなんだとその度に満足しちゃいます。休日には名古屋から新舞子や明治村あたりまで、往復100キロ程度のツーリングによ



出くかけるんですけど、YSR50はらくらくこなしますね。本当に50cc、ナンパーワンのバイクだと思います」

一方、平井滋司さん（20歳・運転手・愛知県熱田市）と二村秀樹さん（20歳・建築業・名古屋南区）のお2人は、ともに400ccスポーツのユーザー。セカンド・バイクとしてYSR50を購入されたお2人は、ともにレース志向派。でもYSR50の楽しみ方は、ちよつと別です。まずは平井さんから――  
「400ccスポーツと50ccレジャーバイクを持っていました。400ccはもっぱらツーリング用で1日800キロも走っちゃうんですよ（笑）。

でもツーリングばかりじゃなくレースをしてみたいと以前から思っていたんです。でも仕事柄ハードなものは無理とあきらめかけていたところへ、YSR50が登場、しかもYS

R50を中心とした12インチ以下のレースも企画されていると聞いて、これグッ！と思っただんです。2サイクルなのでメンテナンスも楽、はたから見てもカッコいい大きさとスタイルも気に入りました。手頃な費用でレースを楽しめるYSR50は、本当に最高です」



一方、平井さんとは逆に二村さんはFZ400Rで鈴鹿サーキットのSPレース挑戦をめざし準備中。

「FZ400Rは、SPレース専用で改造し



ているので公道は走れないんです。そこで休  
とバイクが離れないように、とYSR50を買  
いました。

休みには往復150キロぐらいツーリング  
していますけど、YSR50はハンドリングが  
最高に素直でいいですね。FZ400Rと比  
べても小さい分だけ敏感なようですけど、同  
じようなハンドリングなのでいい練習になり  
ますよ(笑)

それにフロントのディスクブレーキも、ス  
ーパースポーツと同じようなタッチ。私はX  
J400D以来のヤマハファンですけれども  
メーカーがちゃんとした考えでつくりあげた  
新しい50ccスポーツ、それがYSR50だとい



うのがとても良くわかって、ますますヤマハ  
が好きになってしまいました」

この3人に共通しているのは、「バイクは走  
りを楽しむもの」という意識。そしてみなさ  
んのそんな気持ちを一気に拡大しているのが、  
他ならぬYSR50というわけです。

# FZR400

## 信頼できるコンセプトとメカ 抜群の乗りやすさで コスト・パフォーマンスも十分

■齊能吉治さん(24歳・会社員・東京都八王子市)

5月10日のデビューから快調なすべり出し  
でお客さまを増やしているFZR400。7  
月下旬からはフアラウエーブルー・カラーも  
追加され「FZR人気」に一層の拍車がかけ  
られています。そんな中で、数多いFZR4  
00ユーザーを代表してご登場いただいたの  
は、齊能吉治さん。

バイク歴2年、つまり22歳から乗り始めた  
齊能さんは、250cc、400ccと市場でも  
話題性の高いスーパースポーツモデルばかり  
を乗りついでFZR400が3台目。お勤め  
の自動車会社は週休2日制とあって週末には  
FZ250フェーザーに乗る奥さま阿由美さ  
んと連れだってツーリングに出かけています。  
そんな齊能さんがFZR400を選んだの  
は――

「FZ400Rに較べると約9万円価格差の  
あるFZRですが、アルミフレーム採用でし



日光や清里へもツーリングして、FZR400にすっかり満足の  
齊能さんとFZ250フェーザーに乗る奥さま・阿由美さん

かもアンダーカウル付き。そしてYZFのレ  
ブリカであるという作り込みが感じられる。  
だから決して高くない。それだけの性能はあ  
る、と思ったんですね。

それに、アルミのデルタボックスフレーム、  
ロクマルの偏平ラジアルタイヤ、さらに中途  
半端じゃないデザイン、しっかりとしたコン  
セプト……まさに「ワークス・クオリティ」

というか、そんなところがとても信頼できた  
し、気に入ったんです」  
さらにつづけて、実際の乗車感をつぎのよ

うに話してくださいました。  
「実際に乗ってみてまず驚いたのはパワーパ  
ンドの広さ。トルクに谷がなく、パシヤル  
状態でのキャブレレーションの安定がいい。だか  
ら街乗りでも非常にラクなんですね。  
ワインディングロードでも、その安定性に  
はビックリしました。

マシンを寝かし込んでいくときも、マシン  
に与えてやる力が一定でいい。だから、パン  
クのきつかけをマシンに与えてやるるときも、  
フルバンク時も、ほとんど同じフィーリング

で乗れるんです。高速のコーナーでも抜群の安定性と乗りやすさがあるし、高速での直進安定性もビカイチ。やはり、フレーム剛性が優れているからだろう、なんて思っています。(笑)

ブレーキも扱いやすく、握力に応じた効き味がありますね。アッ! それから大切なのが乗り心地の良さ。確かにシート自体の感触には硬さがありますが、ロングツーリングでもお

尻の疲れをまったく感じさせないんですよ」

5月中旬の納車から1ヵ月半。取材に伺った7月6日のオドメーターは、1600kmをさしていました。すでに日光丸沼高原や清里へのツーリングで馴らし運転も終えた斉能さんのこの夏のプランは、FZR400を駆つてのズスカ8時間耐久観戦ツーリング。取材を終える頃、話題はすっかり夏のズスカでのYZFへの期待……へとはずんでいました。

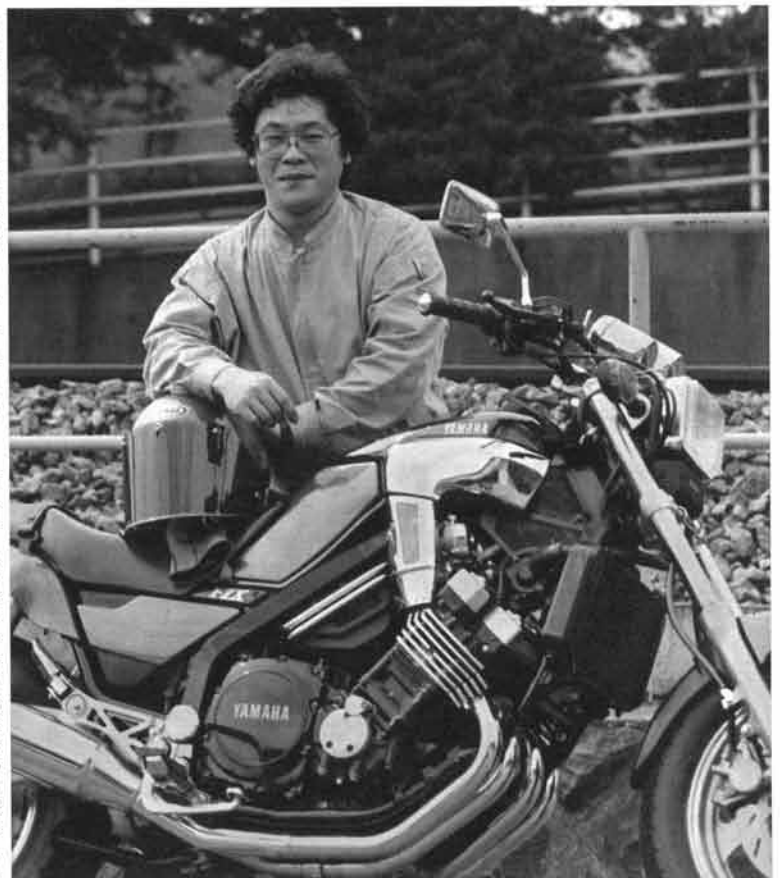
# FZR750 1年間のプランクを 全く感じさせない 乗りやすさ

■立原実さん(30才・会社員・東京都品川区)

FZR400が、ヤングライダーたちのホットな話題を集める一方で、その斬新なスタイルとそこに秘めた強烈なパフォーマンス、しかも抜群の乗りやすさ、扱いやすさでベテラン・ライダーたちの間に深く静かに浸透しているのが、ニューパフォーマンスクルーザーFZR750です。

立原実さんも、まさにそんなヤング・アダルトの一人です。

「昨年の東京モーターショーを見に行ったとき、これだ!と思ったんです」というように、バイク歴4年。250cc、750ccのスポーツを乗り継いできたものの通勤での使用が多いことから軽二輪スクーター・シクナスに代替。それ以降スポーツバイクは「一時お休み」していた立原さんが、FZR750に最



初に魅せられたのは昨秋のこと。そしてこの5月、「店頭で実物を見て、ほとんど衝動的に買ってしまっただけです。全体的にコンパクトにまとまっていること。そして子供っぽくないところが気に入りましたから」というのが、立原さんにとつての購入動機。「それに値段も手頃。同クラスの他の750ccに比べると約5万円は安いでしょう。カウリングが付いていないので、転んだときの修理代も、そう心配しなくてもいい訳ですからね」(笑)

さて、すでに1000kmを走ったFZR750の印象をうかがってみると――

「ツーリングと通勤に乗っています。通勤はシクナスとの乗り分けで、天気の良い日はFZR750、悪い日はシクナスなんです。

昨今レーサーレプリカが多い中で、このFZR750は普通の、それでいてしぶさのあるバイクですからライディングウェアを選ばずに乗れるのがいい。スラックス姿でも気軽に乗れ

てしまうわけです。街中の渋滞でもポジションが良く、スクーター感覚で乗ってしまいうから。

もちろんパワーは、さすがジェネシス。見た目以上の加速感が楽しめます。それに、独特の吸気音、半クラッチ状態でも何の異和感もない油圧クラッチ、磨きやすくて独特の艶のあるホイール、白文字のメーター類と、いろいろな部分に改めて惚れ込んでいます。

コーナーリング時もクセがなく、自信がなくともそれなりにコーナーを楽しめるバイクなんです。先日、久びさに箱根に行ってきたんですが、1年のプランクをまったく感じさせてくれませんでした」

そんな立原さんの夏休みプランは北海道ツーリング。目下、フェリーを利用するか、それとも飛行機を利用するかを検討中とのことでした。

お便り  
待っています！

普段のお仕事や生活の中の、ちよっとした話題をお知らせください。ご商売に関する事、お客さまにまつわる話題、ヤマハやヤマハニュースに対するご意見、ご希望など、どんなことでもけっこうです。写真やイラストも大歓迎です。

仕事を離れても郵便局のみなさんのおつきあいが多くです

古井啓司さん・27才  
(古井輪業商会/秋田市)

うちは郵政の保守店。保守店に求められるのはなんととっても迅速な対応なんです。バンクの連絡が入ったら、どこへでもスグに駆けつけて行きますよ。

保守車両は17台、毎月17日を「安全点検の日」と決めて、朝8時30分から1時間ほどかけて局に出かけて安全点検を行なっています。こんなことから仕事を離れても郵便局のみな



# あんななお店、こんなお店 とてもやさやかで、ありふれた毎日だけど...

さんとおつきあいが多くですよ。バイク好きの局員さんも多いですからね。30名いるうちの店のYESSS会員のうち10人は局の人。クラブの会長や副会長もやってみていただきます。安全点検をしても、つい話は次のツリーングやYRSの参加予定などに行ってしまうんです。

釣りツリーングで  
ちよっぴ一服

横倉久夫さん・38才

(横倉モーターズ/宮城県柴田郡)

創業34年、親父の代に始めた店で、今は私が跡を継ごうと頑張っています。人口3万5千人の小さな街なので、地元密着型の地道な商売ですが、お客さんの世代も変って若い人たちも増え、これからはモータースポーツにも力を入れていこうと思っています。

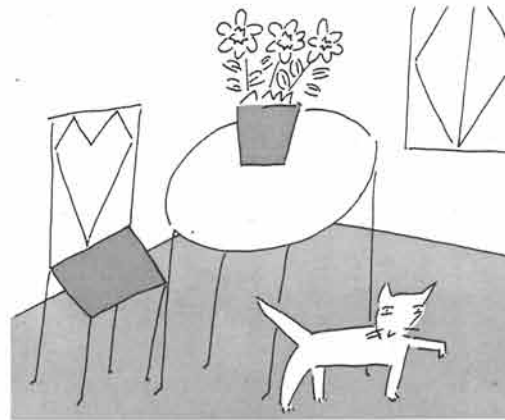
そんな事もあり何かと忙しい毎日を送っていますが、店のクラブ「R&S」のメンバーと一緒に釣りに行くと休日の釣りがいい息抜きになっています。店から30分ぐらいで行ったところに手頃なヘラブナのスポットもあるんで、休日のウキを眺めながらの時間が、今、最高の楽しみです。

家族揃っての九州旅行、  
とても楽しみですよ！

白崎真佐子さん・36才

(オートショップKOGOC/石川県金沢市)

主人と私の2人で店をやっています。順調とまではいきませんが、子供たちや家庭のごとも含めて一生懸命やっています。普段は家族揃ってバイクのことがかりで毎日を送っていますので、お盆と正月の2回はバイクを離れてバツと休みを取ろうと思いい、今年3月からは、定休日なしで頑張ってきました。休みの日に店にいると、修理に来たお客さんがつい気の毒になって仕事をしてしまうの



で、この間は家族全員で外出することになりました。この夏は九州の方にキャンピングカーで出かける予定です。今もその計画で、主人と一緒に話を花を咲かせていたところですよ。とても楽しみにしているんですよ。

楽しいPOPを作ってください！  
池田欽次朗さん・46才  
(池田商会/京都市)

タウンメイトが発売された時に、キャラクター小朝さんのパンチングボールだとか、その後も子リスの指人形など、とても楽しいPOPや小物がありましたね。近所の子供たちにとっても喜ばれて、親ごさんたちの来店促進のとてもいい材料になったんですよ。

あんな楽しくって、子供の人気を呼びそうなの販促物をぜひまた作って欲しいですね。なんといっても子供には弱いものですかね。親というのは。

スクーターの型の風船や浮袋だとか遊園地感覚の楽しいPOPなんてどうですかね。親を動かす子供のくちコミ、パワーありますよ。

息の長い商売のために  
ご近所への心配り

森武彦さん・40才  
(三菱モーターズ/奈良市)

昨年、おとなりの家に子供が生まれたので、近頃とくに修理の時の騒音に気を使っています。とくに修理車のエンジンをかけてみるときは、密閉された部屋の中でやったり、モトクロスサーなんかは店の前の田んぼの中まで押していったら、チャンパーを家のない方向に押しつけて努力しています。

地元で長い間商売をやらせてもらう以上、こういった心配りは必要不可欠ですし、苦情を言われたりするのには格好悪いですからね。店の回りは大阪へのベッドタウンとして、どんどん成長している場所なので、市場としても楽しみながら。それだけに周辺に対する心配りは欠かせません。もちろん、私のモットーとしている「クレーム・ゼロの修理」と両立させてすけれどもね。



森社長のお気に入りV-MAX「走りもスタイルも迫力十分、店のアイキャッチャーとしても最高です」との声も寄せてくれました

お便りの宛先は

〒438 静岡県磐田市新貝2500  
ヤマハ発動機株 広報室・宣伝課  
「ヤマハニュース」編集部です

# ニューコンセプトにみるヤマハらしさ②



ますます磨きがかけられ、充実著しいヤマハの250CCと400CCのスーパースポーツ。あるべき本来の姿を求めて今、TZR250RとRZR250R、そしてFZ400RとFZR400Rが光り輝いている。

## ■ニューRZR250Rにみるヤマハらしい発想

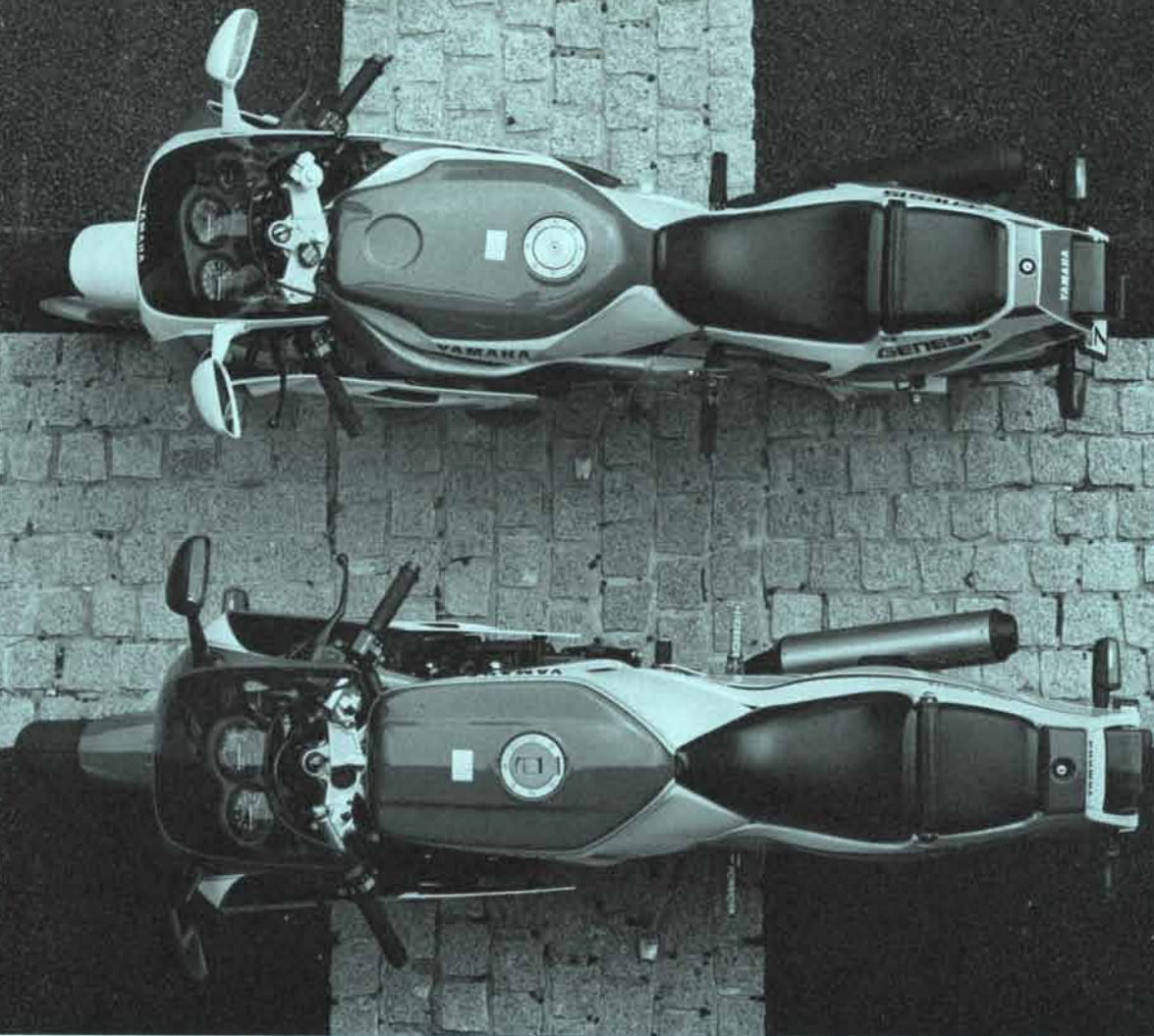
「進化」この最も大切なことに真正面から取り組み、安易なモデルチェンジでお茶を濁したりしない、そこにいかにもヤマハらしい発想の原点がある。

長い間、大きなモデルチェンジをすることもなく、熟成を重ね続けているヤマハのロングベストセラー・モデルSR400/500。単気筒はより単気筒らしく、を求めて熟成という名の「進化」を遂げてきたヤマハには、真のエンスージャストの期待を裏切らない厚い信頼が寄せられている。そしてその期待はいよいよあの名車「RZ」にも広げられたのである。

ニューRZR250Rにみるヤマハらしいコンセプトとは、まず2サイクル・スーパースポーツのふたつのジャンルの確立にあった。モーターサイクルは日々進化を遂げ、生み出された技術は怠ることなく全力で商品に投入されなければならぬ。もてる技術はもとより、より理想的な素材をふんだんに使い、卓越のエアバランスと走りをリーズナブルな価格設定の中でバランスさせるものでなければならぬ。TZR250Rが、その象徴である。

だがその一方で、従来からのメカニズムを最新の技術ノウハウで洗い直し、大幅なコストをかけることなしに、それでいて理想的なもうひとつのモーターサイクルを作り出すことも可能である——開発スタッフはこう考えてニューRZRの開発に取りかかったのである。SRで展開してきた手法だが、2サイクルの分野でも他を大きくリードしてきた永年の実績があったから、ヤマハにとってはこれが可能となったのである。予想どおり、出来上がったニューRZRはその期待通りのまとも裏を見せた。

まず特筆すべきは、車体関係の大幅な見直しによる軽量化にある。軽量ニューキャスト



ホイール、アルミ製フルレストなどの採用による7kgもの軽量化。これで走りはさらに磨かれ、あのTZRとはまたひと味違った軽快感を導き出したのだ。同じ2サイクル250ccの中で、走りの味覚をふたつ具現化できる技術。それこそ、ヤマハならではの実績と伝統のたまものだろう。

その、ひと味違った軽快感とは、前後18インチホイールが持つ安定感をそのままに、パネ下重量の軽減によって、しなやかさと軽い切り返しを付加したものだ。TZRとは外観ばかりでなく、乗り味についても明確な性格分けをしているところに、ヤマハのしたたかな作り込みの奥深さが感じられるのである。

ニューRZの改良点は、もちろん軽量化だけではなく。シートレール幅の短縮(30%)とシート高の低下(10%)でスリムなポジションとすぐれた足着き性を実現。また、キャブセッティングや2次減速比の変更でレスポンスと加速力を増強。もちろん、エンジンやクラッチなども細部にわたって見直され、信頼性と耐久性向上を実現している。

しかも価格は旧タイプと同じ39万9千円。バリユー・フォー・マナーの見地からすれば、ユーザーにとつてこれほど魅力的な存在は他にないといえよう。鉄フレームであっても、ここまで軽く、ここまで速くできるんだ!そんなメーカーのスピリットと良心が、ユーザーのハートをダイレクトにくすぐるに違いない。他メーカーには絶対に真似のできない商品企画力が、ここで見事に開花しているといつても過言ではなからう。

RZがデビューして早や7年。2サイクルならヤマハ、というユーザーはもとより、2サイクル車においてもバリエーションのあるヤマハ。そんな支持がいま確実に実りをあげようとしている。

## ■人気、実力ともにトップを走る

### TZR250

いわずと知れたトップセラーモデルTZR250。トップセラーと成り得たその理由は、

卓越の動力性能がそこにあるから、という単純な言葉では現せない。そこにTZR250の凄さがある。

先に紹介したニューRZとこのTZRの対比がここで問題になるのだが、要約すれば次のようにRZとTZRの位置づけができる。ニューRZは、ヤマハの2サイクル技術の伝統によって磨き上げられた熟成のスーパーバイク。TZRは、ヤマハのレーシングテクノロジーをダイレクトに一般公道走行用として表現した革新の一台。

同じ2サイクル並列2気筒のエンジン構成でありながら、RZとはまるで異なる次元を求めたのがTZRであるが、そのコンセプトは明快である。

走る、曲がる、止まるという機能を求める場合、それがもっともストレートに表現されているのがワークスレーサーといえる。そしてワークスレーサーの素直な性格を量産車として表現する——それがTZR開発の狙いである。だから刺激的でコンベティティブなスタイルやファイチャーを盛り込むことを目的としたレーサーレプリカ車とは、一線を画した位置づけをしなければならぬ。レーサーレプリカのためのマシン作りが目的では一切ないところに、TZRの価値があるといえる。

TZRはまさに2サイクル250ccスーパースポーツの原点を求めた、レーサー直系の第1号車なのである。豊かなトルクとクイックレスポンスを発揮するクランク室リードバルブ、フリクションロスを低減するドライサンプ潤滑方式トランスミッション、アルミデルタボックスフレーム、前後17インチホイール、大型のフロアリングマウント式フロントディスクブレーキ、クラス世界最小のCd値など、そのすべてがワークスマシンのYZR直系のメカニズムなのである。先ほども触れたようにこれらはレーサーレプリカのためのファイチャーでは一切ない。ワークスレーサーの一般市販車への調教であると考えたい。

いやもするとレーシーなマシンはライダーを



いたずらに刺激すると考えられがちだが、TZRはちがう。ワークスレーサーYZRが、ことのほか乗りやすくできており、それが数多くの栄光に結びついている。TZRのスピリットは、まさにそれをキーポイントとしていたのだ。

例えばビギナーが初めて乗った時でも、ベテランライダーが本格的に攻めた時でも、異和感がまったくなく、乗りやすさの中にも奥深いポテンシャルを感じさせてくれる。「高性能は乗りやすい」のである。ヤマハの技術陣はあえて難しいこの問題に取り組み、そして成功した。姿・カタチにまどわされたいベテランがTZRのユーザーに多いのもうなづけよう。

2サイクル250ccの最先端がTZR250。そして熟成の味とロープライスを求めるならニューRZ250R。ヤマハのこの明快な商品構成こそ、ユーザーのハートに訴えかけられる説得力そのものである。

## ■モーターサイクルとして

### 正常な進化を遂げた

#### FZR400

'86年5月にデビュー、早々大きな話題で盛り上がったFZR400。これも従来のFZとは姿、カタチこそ似ていても、狙いはより絞られたものとなっている。ズバリF3レースで勝てるクルマ、がFZR400開発の狙いである。レーサーとしての機能を追求していくことと、市販車としてのレベルアップを果たすこと。このふたつの要素を、同義語としてヤマハが把えたのは、その裏付けとして高い技術力があつたからである。

ヤマハの4サイクルF1レーサー、YZFが培ってきたジェネシステクノロジーを、そのままこのFZRとYZF400(ワークスF3マシン)へ。つまり、FZR400とYZF400は同時開発となつたわけだが、TZR250のワークス直系よりもさらにダイレクトに、勝てるレーサーのベースマシンとし

てFZRは仕上げられている。

ヤマハには自信があつた。レーサーこそ、より人間に近い乗りもの、というコンセプトがTZR250によって、ユーザーから熱い支持を受け大成功していたからだ。

やはり、4サイクル400ccでも同じレーシングスピリットをベースに作りだせば、真のエンズージャストはきつと理解してくれるのではないかと。ヤマハのこの考えは見事に的中し、FZ400Rの人気にも増して多くのオーナーをかかえるに至つたのである。ただし、TZRと作り方を似せるのが目的ではない、というところにFZRの存在理由がある。基本作業の第1はまず、乗りやすさの追求。より具体的に言えば高回転での特性を向上させながら低速回転での充実強化であつた。

そして第2に高次元でのバランスを求めた操作性を追求すること。重量を下げつつ、剛性を高めたフレーム、そしてハイグリップを約束するラジアルタイヤの採用。これらの基本達成項目がFZR開発の当初から設定され、まさしくレプリカのためのマシンづくりには一切なっていない、というところにヤマハラしい真面目さがうかがえるのである。

TZRが250ccの究極を求めて250cc専用のフレームおよびエンジンとしたように、FZRも400cc専用のエンジンとフレームとした。それは、一切の妥協もなく作り込んでいくには必然の判断だったからである。FZRを形成するこうした諸々の条件。それが折り重なって始めて見えてきたものは、「安全」であつた。

究極の姿を求めると、それはレーサーにたどりつく。そしてレーサーの本質は、より高い次元で信頼できるエンジンとフレームのトータルパフォーマンスの追求である。人間が思いどおりに走るために、いかにコントロールしやすいマシンをつくり出すか、ということである。本来の「安全」の姿はここから求められるなければならない。

もちろんFZRだけでなく、TZRもこの思想から作られたものだ。味わい深さと同

時に、「安全」の思想こそ、高いポテンシャルを秘めたマシン作りの根源となつている。ヤマハが創立以来レースで育んできた安全なマシンの思想が、こうして今では一般市販車の開発コンセプトの中にまで深く根づいているのである。

ただ単に高性能を求めただけでなく、安全までも含めたワークススクオリティがこのFZRであり、TZRなのである。

一方、400ccクラスで高い人気を得てきたFZ400Rは、FZR登場後も併売されている。ニューRZと同様に、ロープライス

でハイポテンシャルを楽しむという方向でのひとつの回答をヤマハは用意しているのである。

限りなき高性能を求めて生まれたTZRとFZR。そしてベシックなモーターサイクルをRZとFZ400Rに求めてヤマハの明快な商品構成が確立された。他にはないこの充実ぶりは、良識あるユーザーからきつと厚い信頼が寄せられるであろう。思慮深く明確なコンセプトワークはいま、時代の先端で必要とされている。そして、これはヤマハラしさの新しい一面でもある。(山本一成)



# 頭で考えなくてもロクなやつなぐのどい、実験を繰り返して絞っていくでござります。

20歳前後の若者の間にノンノ・ボーイ、鑑賞用男性、あるいは盆栽ボーイなどと呼ばれる男の子が増えてきました。おしやれが上手でかわいくて、昔若者だった人々に「まったく最近の若いもんは……」と嘆くことも忘れさせるほどの衝撃を与えています。

今年6月に創刊された「メンズ・ノンノ」は、そんな若者に熱烈歓迎されたよう、創刊以来すべて完売、しかも発売日から2〜3日で売り切れてしまうほどの人気。いったい何が彼らの心をひきつけるのか、これからの若いもんはどうなるのか、頭の中を「アマーク」でいっぱいにして「メンズ・ノンノ」の編集部を訪ねてみました。

## 男性誌の三大要素を外す

完売を続けている雑誌としては部数の増やし方が控え目ですね。

「夏はファッションの端境期なので、あまりよくないんですよ。売れるからって調子にのつると痛い目にありますから」

「なるほど。(笑)それにしてもすごい人気ですが、発売のいきさつはどういう……」

「ノンノは昨年で創刊15周年でした。一般に雑誌は増刊を出して稼ぐものなんです、ノンノはこの15年間にたった2回しか増刊を出していません。で、15周年なんだから何かやろうって考えたところ、もう女性誌ではやることがないんですね。ヘアメイクにしろファッションにしろ。では思い切ってメンズをや

ろうってことになって。今、男の子がおしゃれになったでしょ。そして女の子のDC(デザイナーズ&キャラクター)ブランドが男ものを出している。ですから、需要と供給の両面で芽は出ていると判断したわけです」

「誌面を見ると、ほとんどノンノのまま、女が男になっただけという感じですが。」

「よく言われますが、私達はユニセックスな本を作る気は全くありません。これはあくまでも男性誌なんです。ただ、手法が女性誌と同じなだけで、というのは、女性誌をやってきた者としては、従来の男性誌は日常生活の情報に関してはとてもイジーな作り方をしていると思っていたからです。」

男性誌を開くとまず女の子でしょ。ヌードとか。これは情報価値がありませんよ。一瞬の楽しみだけで、それで、ヌード、セックス、スキヤンダルをやめてみよう。これは冒険です。男性誌が売れる要素を全部外しちゃったんですから。ポパイやホットドックが時どきセックス特集をやりますでしょ。あれが売れるんですよ。通常の発行部数に5万部ぐらいいはのせるんです。商業誌としては見逃せないところですよ。それをやめて、実験的に完全にノンノの手法でやってみなければ

## 女性に授業料を払い終った

「それで化粧のページが入ったんですか。ええ。ノンノでやっているテーマは全部やっていますから。まず巻頭ではトシちゃん(田原俊彦)がピンクの服を着ると笑。これらのファッションページがきれいで見やすいと好



「山本大介氏(フオロー)と昭和43年集英社入社。セブンスターの創刊に際し、昭和46年「ノンノ」創刊に伴い「ノンノ」へ、昭和52年「モア」の創刊に主任として参加。昭和54年副編集長として「ノンノ」に復帰。昭和61年「メンズ・ノンノ」創刊に伴い、副編集長となる。(編集長は「ノンノ」と兼務)。昭和19年東京生まれ。メンズ・ノンノは61年春の第1号が28万8千部、2号が31万8千部、3号が33万8千部発行で、いずれも発売後数日中に売り切れという記録を達成。業界人のドギモをぬいた。

評でした。一般的に男が男の写真を撮ると凝り過ぎちゃうんです。アートしてしまつて服のディテールが見えなくなるんです。メンズ・ノンノでは、すべてノンノのスタッフがやつたので、細部までよく見える写真になっています。

そして男と女のタレントのページやおしゃれスナップ——街頭でかっこいい子を撮ってくるやつ——これは人気があります。それと占。女性誌には不可欠のページなんで16ページもやつたんですが、これは良くなかつたですね。だから今は縮小しています。

化粧に対する反応は良かったですよ。まだ化粧というよりスキンケア程度ですが。パツクは人気ありますね。料理も好評です。とっつきやすいチャーハン、スパゲティ、おつまみなど。実際に作っているかどうかはわかりませんが、お母さんや彼女に見せて作らせているのかもしれない(笑)。

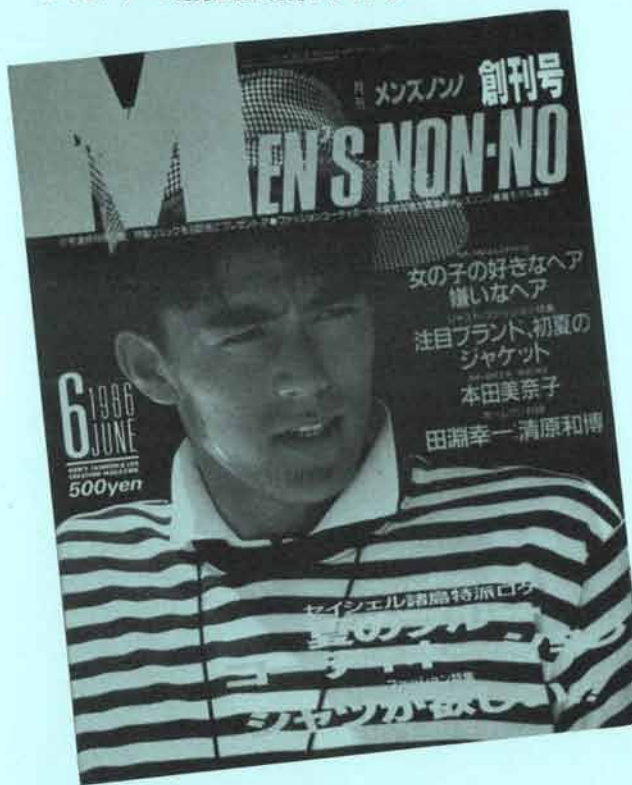
「ファッションページに女の子が入っていますね。」

「ええ。私達は長いこと女性誌をやってきたので、男ばっかりだと気持ち悪いんですよ。むさ苦しいとか(笑)それで女性モデルを入れてるんですが、やはり誌面は明るくなります。かわいいからって、読者の問い合わせもありますね。」

ファッション写真は、女性誌よりゆつたりしています。たとえばノンノなら8人並べるところを6人という具合です。女性は写真を読みとる能力がありますから。男性はまだ小さな写真から細部を読みとれないですね。」

「女性のほうが目がいいわけですか。」

発売3日間で「完売」という驚異的な売れ行きをみせた創刊号。この後の号も増刷を重ねながらも、すべて発売直後に完売されている



「月刊となる前、「ノンノ」の増刊号として昨秋に発売され好評を集めた「メンズ・ノンノ」スポット的な発売であったが、この時の経験がすべて現在の誌面の中に生かされている

「そりゃあ、女性は15年もかけて勉強してま  
すからね。死ぬほどお金使って、賢くなつて  
います。それに比べてメンズのファッション  
はここ2、3年でしょ。ブランドも知らない  
し、自分に似合うものの探し方もわからない  
んです。だからブランド特集も人気ありま  
すよ。」

また、女性のファッション感覚、つまり社会  
的制約を無視して服を選ぶ方法をとっていま  
す。こういう服は通用しないとか、男が着る  
のはおかしいとか、一切考えないですね。  
女性は15年かけてここまで来た。ファッショ  
ンは自分でやってみなくちゃわかりませんか  
ら、男は今、授業料を払う時期なんだと思  
います。」

### タテマエから本音へ

—女性誌の後追いですが。

「今はね。しかし男のほうがタイナミズムが  
ありますから、ファッションではすぐに追  
いつくでしょう。その他の日常生活面ではえ  
らく大きな差があると思いますけど。おしい  
レストラン、アートコース、すつきり暮らす  
ためのインテリア、料理、どれをとっても女  
性が上でしょ。」

私達は、ファッションも含めて、日常生活  
を快適に過ごすための情報を提供しているの  
です。昔のように男社会へ逃げこめる時代は  
よかったです。今のように女性が社会  
へ出てくると、男の価値感だけで生きてい  
くのは息苦しいですよ。女性と仲良くやっ  
ていくためには日常生活をうまくやれないと  
ね。それに若者人口は、男のほうが100万人も  
多いんですから、うっかりすると嫁さんも  
もらえないなんてことになります(笑)」

—男はイヤイヤ変わっている……

「いや、そうではなく、男にとっても生きや  
すいんです。私どもの編集長などは『これは  
男の解放である』と言っています。男はこ  
れまでタテマエでがんじがらめになっていた  
ところが女性は本音が優先するでしょ。女性



がちよつとリードしてらるんですね。男がそれ  
につれて変わっていくんだと思います」  
—女性がかわいい男を好むようになったか  
らですか。かつての男らしい男というのはも  
うダメなんでしょうか。

「ええ。そういう男がいなくなることはない  
し、それを好む女がいなくなることもないで  
しょうが、古いパターンの男性はもてる度合  
いが少なくなっていますね。」

ただ、確かに男の顔もプロポーションも変  
わってきて、単純にかわいい男もいますけれ  
ど、それはたくさんある風俗の中の一つです  
からね。それを基盤にした雑誌が存立し得る  
かというところ、それほどの自信はありません。  
私自身40男ですから(笑)疑ってはいるんです。  
反応を見ながらというところで」

### 男の興味の対象をさぐる

—男はこれでもいいのかなって……

「いや、そういう意味でなく、いろんな風俗  
が現われている中で、その一つに絞ることで  
雑誌を作る危険性を考えているのです。たと  
えばラグビー。男の子も女の子もおしゃれを  
して観戦に来るでしょ。それでもやっぱりラ  
グビーは興奮するんですよ。どんなにかっ  
こうをしたって、男の興味の対象は180度カ  
ラッと変わっちゃってことはいらないと思  
います。そういう感性をどういう風にとらえて  
いくか。何がビッターはまっているのかって  
いうのは、何冊も出してみないとわからない  
ことです。」



PSYCHOLOGICAL ASTROLOGY  
男の心理攻撃ホロスコープ

山平座	天秤座	双子座	牡羊座
水瓶座	射手座	处女座	巨蟹座
金牛座	双子座	处女座	双子座
双子座	双子座	双子座	双子座

7 10 8 8

これからの時代に男が心地良く  
生き抜くためのユニークな企画  
が満載された誌面

とないんです。この辺かな、この辺かなって  
やってみて、ま、1年ぐらいは実験を繰り返  
して絞りこむことになるでしょう」  
—それでちよつと安心しました(笑)。そん  
な中で面白い傾向ってありますか。  
「大学生ですとね、仲間を大切にしますね。  
ファッションで最も気になるのは仲間の目  
です。群れるっていいですかね。」  
中学生になると、もう信じられないくらい  
おしゃれですからね。どつから小遣いを捻出  
してらるだろうと思うほどおしゃれします  
よ。言葉遣いも変わってきて、言葉がなくな  
ってしまいますね。〇〇だわのわがなくな  
って、〇〇だよになっていきます。大学生  
が彼らを新人類だっているんですから」  
—そのお父さんはVAN・JUN育ちです  
が、その影響もあるんでしょうか。  
「あるかもしれませんが。広告業界の人にこ  
の本を説明する時でも30代前半までの人はフ

インという感じですが、40代以上の人は「ア  
ソウいえばウチの息子は女房のブルゾンを着  
てる」ってボンと反応しますからね。娘が連  
れてくるボーイフレンドも、おしゃれでおだ  
かやで好感が持てる。ただし頼りなげである  
と(笑)。お父さんは子供の頃、野山をかけ回  
ったものだと思いますが、今の子が持つてい  
る情報量と遊びの幅は圧倒的に違います。生  
活に広がりがあるんです」  
—バイクの人気はどうなんでしょうか。  
「中学の終わりから高校生にかけて、みんな  
乗りがついていますね。私もバイクは好きで  
すが、今の状況はちよつと……。性能面では  
すでにある水準に達しているんですから、も  
っとデザインを考えてほしいですね。一目で  
ヤマハとわかるスタイリングでなくちゃ。こ  
れからは、それがすごく大事になると思いま  
すよ。私どもの雑誌は紙ですけど、バイクは  
ハードウェアですから、あんまり変えないほ  
うがいいんじゃないですか(笑)」

ユーザーのバイブルとして読まれ、市場のオピニオンをリードしている2輪専門誌。販売店さんにとっても生きた情報満載の2輪専門誌の中から直接、間接にご商売にお役立ていただけそうな記事をピックアップし、毎月お届けしています。

くちコミ起爆剤



7月発売の二輪専門誌各誌は、そろって「ズスカ8時間耐久」の観戦ガイドを伝えていきます。各誌とも特集企画に匹敵するスペースをとって、ケニー/マモラ組、平/サロン組などをはじめ有力チームを紹介。真夏の祭典をおおっています。そんな今月号の中で、ヤマハニューモデルに関連した記事として目を引くのがニューRZ250R、そしてTT250R、TT250Rの試乗インプレッション。ニューRZ250Rは、

「煮つめられココの出できたRZ」 (記事1)

という見出しで紹介されており、一方のTTシリーズ2モデルについては

『ビギナーにもOK、TT250R』 (記事2)

『モトクロッサーをよまわる耐久性をもつTT250R』 (記事3)

といった内容で紹介されています。



記事1 煮つめられココの出できたRZ

元祖2ストクォーターのRZ250Rがけっこ本気のマイナーチェンジをして、しかも価格すえ置き39万9000円。これはじつくり考える価値のある話だよ。(中略)と、まあ、これでRZがTTZRに押され、消えることなどなくなったわけ。しかも15万円近くも安いRZがここまで改良されたのだからおすすめ品だね。

実際、いつもの箱根につれていったが、ひとくちにいえば「より感覚になじむ走り」に変わった。たとえば、アクセルに対して車速がすばやく反応するからコントロールしやすく、シャープな動きによくついてくる。(中略)

さて、このRZ、もともと素性の良さに加えて完成度がズシリ。暑い夏のカウルはいらぬし、RZがけっこ繁殖しそぞろ、これは(ベストバイク8月号)

記事2 エンジンをはかるために

またがってみると、オツとやっぱりセローのようなベタタン足つきじゃない。身長が低めのライダーは、サイドスタンドに頼ってキックしたほうがいいと思う。キックの踏力を含めた始動性はセローと同じ感じ。排気音も、音量・音質ともに、セローと同じようにしか思えないレベルで、モトクロッサーを走らせるときのような、周囲に対する気配りはあまり意識しないでもよさそう。走りだしてまず気づくのは、ギャ

リングのよさだ。コースでスポーツ

ライディングをするには、TTのように11.6速までを、加減速に合わせるフルに使えたほうがいい。タクトタインからの加速時に、スムーズさを感じたTT225だった。そして足まわりのよさ。これはもう素晴らしいもので、ウォッシュボード状の連続ギャップでも、ジャンプでも、モトクロッサーに乗っているときと同じに、何の気おくれもなく突っ込んでいける。

モトクロッサーと違うのは、ピリピリと緊張しなくてもいいということ。疲れないし、ビギナーにも楽しめるというところ。オフ・スポーツ楽しみ派に絶対おすすめ。(モーターサイクリスト8月号)

記事3 ここに登場するTT350

0は、KTMに対しても遜色ないハイレベルのエンテューロマシンとして我々の前に姿を現わした。(中略)TT250やTT600などのマシンとはまったく違う性格。テザートレースのように直進性の安定より、タイトなコーナーの続くコースにセッティングされたTT350。感覚というなら、モトクロッサーに近いフィーリングであり、エンテューロという競技においては、モトクロッサーを上回る耐久性を兼ね備えたマシン。それがTT350なのだ。このヤマハからの2台は、現在の我が国におけるオフロードスポーツの低迷に歯止めをかける存在となっ

て欲しい。(後略) (サイクルワールド8月号)



情報スクランブル

お忙しい販売店さんのための情報アンテナ

BOOKS

●ワークス・クオリティを余すことなく再現  
『FZR400・スベシャルブック』

「TZR250」につづくバイク・グラフィックシリーズの第2弾。  
ライディング・インプレッション、先進メカニズムの紹介、開発ストーリー、レース、メンテナンス講座、パーツカタログ etc.:

豊富な内容と美しいカラー写真で、「FZR400」の魅力を余すところなく再現しています。サイズもA4判とビッグで、見やすさも抜群。オーナーズマニュアルとして、FZR400を所有することの感激を最高に高めてくれる一冊です。

造形社 ¥750



●いざという時のために  
『マシントラブル大作戦』

ツーリング中のマシントラブルに、限られたパーツやツールでいかに対処したら良いかを克明に解説した、トラブルシューティング大全集です。オンロード、オフロードの修理方法の他に、事故



原 久三 著

や転倒時などのケガの応急処置や、日常点検のやり方などもわかりやすく解説されています。初心者ライダーにはとくに読んでおいて欲しい一冊です。  
山海堂 / ¥980

WAVE MUSIC SENSOR

夏本番/学生さんも社会人の方も、最高のレジャーシーズンを迎えて活発に動き回る季節です。もちろんBGMも躍動感あふれるものを選び、活気に一層の拍車をかけましょう。日本で一番早いレコード情報の提供は、東京六本木の「ウェーブ」です。

●競演、2大スター  
『DOUBLE VISION』  
(ダブル・ビジョン)



フュージョン界をリードする2大スター、ボブ・ジェームスとデビッド・サンボーンが競演。隠れたベストセラーとなりつつある好アルバムです。特にサンボーンが奏でる軽快なサクソスは、これからの季節にピッタリです。

●売りのものはカッコ良さ  
『Walk about』  
(ウォーク・アバウト)



デビュー以来ハイセンスなポップスをつくり続ける、イギリスの5人組、フィックスのニューアルバムです。一味違うタイトなサウンドはカッコよく、ヤングウケまがいなし。

COMMODITY

●熱くなったら冷せばいい  
『フリーコールド』

水を入れてよく振るだけで、瞬時に0度C以下に冷えるという、ちょうど使いつてカイロの逆になるという便利ものです。保冷持続



EVENT

●お得なレース、スーパーエンデューロ  
『第2回四国スーパーエンデューロラリー2日間』

2日間にわたり、一周約150kmから400kmのクロズドコースを2周するという走り応え充分のレースです。場所は愛媛県上浮穴郡の久万町ふるさと村、サマーフェスティバルin四国の会場ともなっている場所です。

時間は3〜4時間あり、打ち身やねんざの際の応急冷湿布やクーラーボックスの冷却用など、使い方はアイデア次第で無限大。夏のイベント時などには何かと役立つと思います。  
お問合せ (南なが井) 0534(48)6284 / ¥350、詰替用薬剤(4回分) ¥650

●取付け簡単な防犯ブザー  
『防犯ブザー』

引き窓の枠に手軽に取り付けて使用できる防犯ブザーです。乾電池式なので工事の必要がなく、どなたでも簡単に短時間で取り付けられて、しかも電池交換時期がくるとビッピッという減電圧警報も鳴るので、電池切れの心配も不要。デザインもスッキリとして、サッシ窓にもピッタリです。  
お問合せ 東芝電材㈱ ☎03(457)6133 / ¥2680



参加資格は免許取得1年以上の人なら老若男女どなたでもOK。走行前には健康診断で身体の状態をチェックします。クラスはなし、ただし、120cc以上の、トライアル車以外のオフロード車が参加対象となります。

日時 9月13日(午後3時から車検) から9月15日(午後12時30分閉会式)、参加費、個人エントリー / ¥18000(競技拘束中の食事代含む) 問合せ S S E R 事務局 ☎0899(33)5465

# スポーツ市場の基盤強化へ 生かそう！MFJの新活動

モータースポーツの底辺拡大のための活動を通じてスポーツバイク市場の健全な基盤づくりを推進しようと今年からスタートした日本モーターサイクル協会(MFJ)の新活動。二輪業界あげてのこの活動を、その中心となる販売店のみなさまにしっかりとご理解いただくための新コーナーです。

今月はその第1回、MFJの新活動の全容をQ&A形式でまとめました。みなさまのお店でも「MFJスポーツ協力店」となって、この活動に積極的にご参加ください。

**Q** MFJの新しい活動とは、ひとくちにいつてどんなものか？

**A** これまでMFJの活動といえば、全日本選手権や地方選手権などのレースがほとんどでした。

これに対して、免許年齢以前の少年・少女たち、また免許年齢に達していても運転免許を取得していない人たちなど、より多くの人たちにモータースポーツを楽しんでもらえるようにしよう、というのがこのMFJの新しい活動の骨子です。

これと同時に、ロードレース、モトクロス、トライアルといった本格的なレースばかりでなく、スクーターによるミニバイクレースなどより手軽なレジャー・スポーツをも取り込んで、地域社会に密着した底辺拡大の活動を展開しようというものです。

**Q** 具体的な活動は、どのようなカタチになるのか？

**A** ロードレース、モトクロス、トライアルのうち、地方選手権レースや全日本選手権レ



ースなどのように入賞者にポイントが与えられ、年間ランキングによって昇格(ノービスからジュニアへというように)の対象になるイベントを「公認競技会」といいます。

これに対して、ポイント対象外のより身近なレースや、ミニバイクレースなどを「承認競技会」。さらにツーリングなどのレース以外の活動や講習会などを「承認行事」というように、イベントを分類しています。

このうち、身近な承認競技会や承認行事は、地域社会に密接な組織によってより活発に展開していこうというわけです。

**Q** 地域に密着した組織とは、具体的にどんなものか？

**A** 承認競技会や承認行事を開催(承認)するのは、全国に新たに組織された県モーターサイクル・スポーツ協会(通称・県協会)です。また、この県協会の活動窓口が、全国の二輪販売店さんにおねがいでいる「MFJスポーツ協力店」というわけです。

地域の二輪ユーザーやユーザー予備軍と最も近く、日頃から親しく接している販売店のみなさまの手で、より多くの人を正しくスムーズにモータースポーツの世界のご案内いただくというわけです。

**Q** MFJスポーツ協力店は実際にどのような活動をするのか？

**A** 県協会会員の募集、入会手続き、承認競技会や承認行事の開催や参加受付など県協会の活動に関するすべてのもの。またこれに

加えてMFJ入会手続きや公認競技に参加するためのMFJ競技ライセンスの取得や更新の手続き。さらに全日本選手権レースなどビッグイベントの前売り券の発売やモータースポーツ情報の提供など、文字通りモータースポーツに参加しようという人びとの最高のアドバイザー、それがMFJスポーツ協力店さんというわけです。

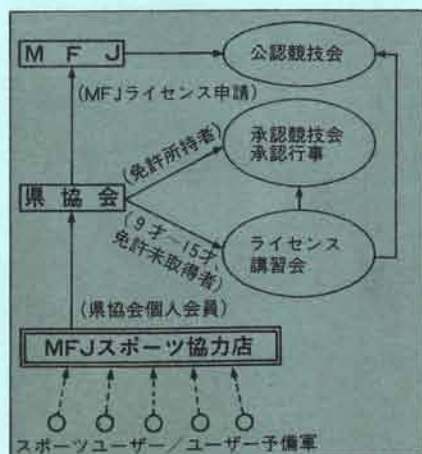
**Q** 販売店にとって最も意義あるのは、年少者や免許未取得者も参加できること、だと思うか？

**A** その通りです。こうした人たちには、県協会、スポーツ協力店が主催するライセンス講習会を受講し、年齢により限定Bライセンスかノービスのライセンスを取得していただければよく、この選択は受講生の自由です。

この場合の年少者とは9才から15才までの少年・少女。彼らにモータースポーツのルールやマナーをいち早く知ってもらい交通社会の一員としてしっかり成長して欲しいというのが、その狙いです。それと免許年齢に達しながら、さまざまな理由で免許を取得していない方でも、講習会を修了すれば競技会に参加できるわけです。

あくまでも趣味としてモータースポーツを楽しみたい方の入門ライセンスがBライセンス。これは16才以上で免許を所有した人でも取得できます。(この場合は講習会不要)

※次回のこのコーナーでは、MFJスポーツ協力店についてさらに詳しくご紹介します。



## 国際級のレーシングカートコース つま恋カートコースがオープン!

静岡県掛川市のヤマハレクリエーション施設・つま恋にかねてから建設が進められていたレーシングカートコースがこのほど完成しました。

このコースは、全長715・5m、幅員810mで140mのホームストレッチに加えて70m以上の直線コース3本を持つ本格的スピードコースです。またこれに隣接して全長500m、幅員6m、最大直線長46mのゴーカートコースも設けられています。

そして、去る7月13日には、このコースのオープン記念式典が川上会長、江口社長らヤマハ首脳陣も出席して盛大に開かれました。この日は折りからの雨を突いて2千人にのぼ

る選手、観客、関係者が来場。オープンングフェスティバルとして行なわれたカートとミニバイク(スクーター、MP12)のオープン記念レース、セレモニー、レースクイーンコンテスト、抽選会、展示会、ライセンスピークなどを楽しんでいました。雨を突いてニューコースをいきいきと走りまわるドライバーやライダーの姿に、このコースを通じてのモータースポーツの広がりが大いに期待を集めていましたが、このつま恋カートコースではつま恋モータースポーツクラブ(TMSC)を中心にライセンスピーク、スポーツ走行、レースと早くも多彩なプログラムが組まれています。

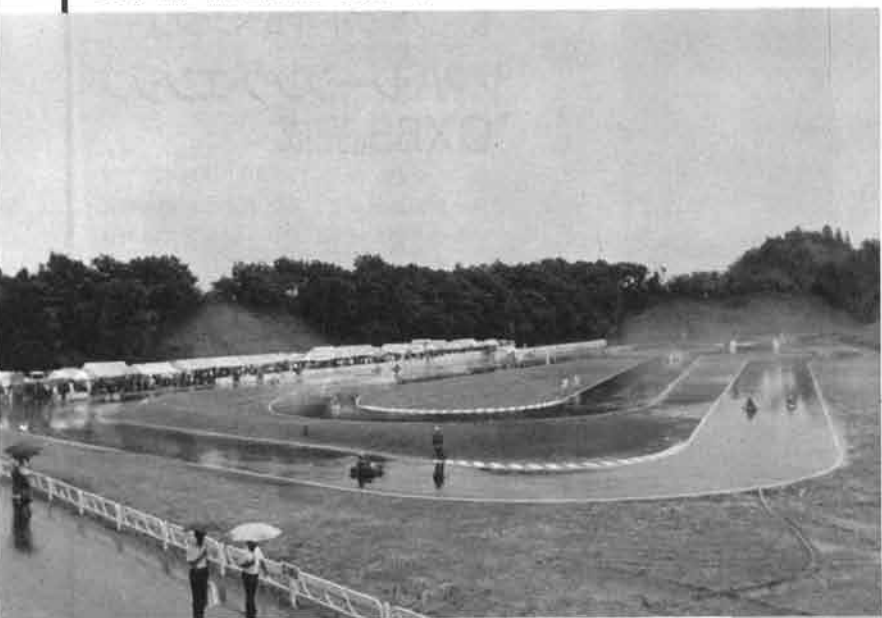


川上会長、江口社長らヤマハ首脳陣も出席して行なわれたオープン記念式典

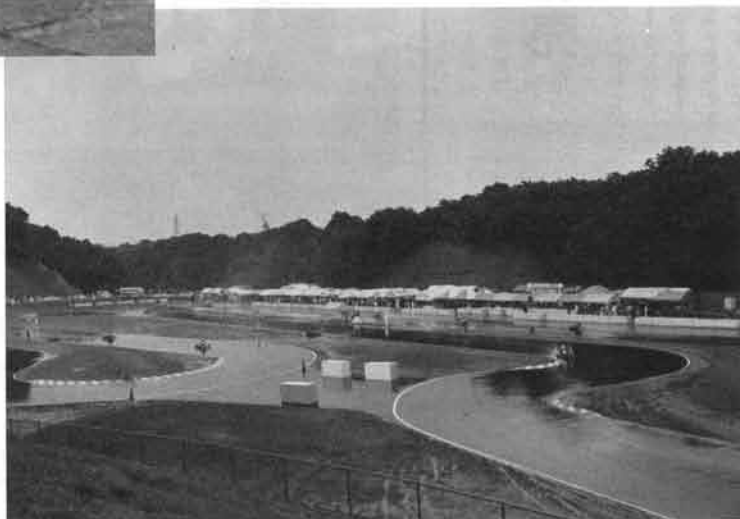
四方を小高い森に囲まれたつま恋カートコース



テクニカルなコースレイアウトはMP12レースなどを最高に楽しくしてくれる



地元・中部はもとより関東や関西のカーターもつま恋カートコースに大きな期待を寄せている



## 22台が参加して

## レディース・ツーリング開催

(ヤマハ四国・松山営)

愛媛県松山市ではお店のツーリングクラブを持つ販売店さんが合同で、女性クラブ員のためのレディース・ツーリングを開催し女性ライダーの増加や育成に大きな成果を上げていますが、その第3回ツーリングが先ごろ行なわれました。

この日は、ライダーズクラブ松山、陸友会、MOTC、瀬戸レーシングMRBなどの各クラブに個人参加の女性ライダーも加えて22台が参加。125cc、250cc、400cc、オンロード、オフロード一緒になって松山市から三坂峠、スカイライン、土小屋、朝生田町を巡るコースの走りをゆつくりと一日楽しんでいました。



合同で女性だけのツーリングを楽しんでいる松山市内のツーリングクラブ女性会員のみなさん



## レーシング・ドキュメンタリー

## ヤマハ・レーシング・エンジン "OX66"完成

'86JAF・F2シリーズでの開幕3連勝やフジGCレース初制覇など、最近大きな話題を呼んでいるヤマハレーシングエンジンOX66の活躍ぶりをまとめた記録映画「ヤマハOX66」が完成しました。

この映画は、自動車用高性能エンジン追求のために開発したレーシングエンジン・OX66のシェイクダウン走行からレースデビュー、そして実戦1年目での苦闘を経て今シーズンの大活躍に至るまでをバワフルな走行シーンをふんだんにもり込んでまとめたレーシング・ドキュメンタリーです。

FZ・ジェネシスにも通じるV6・30バルブのOX66の活躍をお客さまにも、どうぞご紹介ください。映画は15分、16mmプリント、VTR(Uマチック、β-II、VHS)が用意されています。



G. Lodi  
タイヤ、エンジン・ギア等のセッティングは順調です



## エクスセル・イメージ・シンガ ダウンタウン・ボーイ」発売

自分はその男です。街ではただの男でいたい——平選手のナレーションがすっかり話題となっているエクスセルのテレビCM。

この人気テレビCMのBGMとして使われているイメージシンガ小杉保夫とダウン・タウン・ボーイズの「ダウンタウン・ボーイ」がキングレコードから発売されています。ジャケットに平選手とエクスセルの写真をあしらったシングル盤、お客さまにもどうぞご案内ください。





## 世界GPドキュメント映画 "プライド・ワン"9月に公開

1976年から1986年まで、10年間の世界選手権ロードレースシリーズをドキュメントでつづった「プライド・ワン」が、9月から東映系映画館でロードショー公開されます。

東映クラシックフィルム提供、日・米・伊3国合作のこの「プライド・ワン」には、「キング、ケニー・ロバーツをはじめバリー・シーン、ランディ・マモラ、マルコ・ルッキネリ、フレディ・スペンサー、エディ・ローソンな

ど10年間の世界GPを彩った名ライダーたちの名勝負が余すところなくもり込まれ、強烈なロック・サウンドとともにロードレースのダイゴ味を満喫させてくれるものです。

ヤマハでは、この「プライド・ワン」の公開に協力し、全国の販売店さんを通じて特別鑑賞券の販売を行っていますが、どうぞお店でも1人でも多くのお客さまに、このかつてない世界GPドキュメント映画をご紹介します。



87年版ヤマハカレンダーと55mphダイアリーのお申込みは、もうお済みですか。  
恒例のヤマハカレンダー、87年版は、新たに12枚だとしてワールドワイドに愛されるヤマハの姿を描いた総合カレンダー「ヤマハ・ビューティフル・ワールド」をはじめ、「レーシング・カレンダー」ウインド・アンド・ウェーブ、55mphポスター・カレンダーの4種類を用意して、ご利用をお待ちしております。  
お客さまへの最高のプレミアムとして、店名刷込みのこれらヤマハカレンダーをぜひお役立ててください。  
お申込み締切日は、8月30日(出)です。詳しくは、担当セールスマンにお問合わせください。

**お申込みはお早目に!  
'87ヤマハカレンダー**



## パドックの足は 世界の若者と同じ

まっ赤なトライアの左側の男性は、そうご存知カルロス・ラバード選手。そして右側のモト・フォーはランディ・マモラ選手。

YZRを駆ってロードレースGPで大活躍をつづけるヤマハラライダーたちもパドックの足は世界中の若者と同じヤマハのスクーターやATVというわけ。

写真は第5戦ユーゴGP、リジェカサーキットでのひとコマですが、その後は2人とも好調。ラバード選手が250ccでトップの座をキープすればマモラ選手が500ccのランキング2位に進出というわけで、パドックを走りまわる彼らの姿も何倍も忙し気になってくる昨今です。



## 開催まであと8カ月! "YAMAHA OSAKA CUP"

オーストラリアのメルボルンをスタートして大阪まで、世界でも初の太平洋縦断ヨットレースとして注目を集めている「YAMAHA OSAKA CUP」のスタートがあと8カ月に迫ってきました。  
来月3月21日のスタートに向けてヤマハ発動機、大阪市、日本外洋航海協会、大阪港振興協会が組織された推進協議会を中心に着々と準備が進められていますが、去る6月にはこのビッグレースのプレイベントとして「YAMAHA OSAKA CUP」記念大阪港メモリアルヨットレースも行なわれ、本レースへのムードを一気に盛りあげています。  
7月12日現在、この「YAMAHA OSAKA CUP」へのエントリーは日本の11チームを筆頭に、オーストラリア5、アメリカ4、ニュージーランド5、イギリス3、西ドイツ1、フランス1……にのぼっています。



## ■250CC級世界選手権モトクロスシリーズ ヤマハ・メーカーチャンピオン獲得 J・ビモンドがライダー・チャンピオン決定



まさに3度目の正直で世界一の座についたビモンドとYZ250改(写真は第4戦イタリアGPで)



ヤマハYZ250改を駆って250CC級の世界選手権モトクロスシリーズに出場しているジャッキー・ビモンド(フランス・ソノートヤマハチーム)が、7月6日の第10戦・西ドイツGPで今季11回目のヒート優勝、4回目の両ヒート優勝を達成、これにより昨年わずかポイント差で逃した世界チャンピオンを獲得した。

昨シーズンの無念を晴らすようにビモンドとYZ250改は、第1戦オランダGPの第2ヒートから第3戦フランスGPの第1ヒートまで4ヒート連続優勝と今シーズンは開幕から好調なスタートダッシュを見せた。その後も第6戦ユーゴGP、第9戦スイスGPそして第10戦西ドイツGPと両ヒート制覇をつづけて、304点をマーク。ライバルのM・リナルディ(イタリア・スズキ)に220点の大差をつけ残る2GPを

### 8月のレーシング・カレンダー

- 8月3日
  - ▼世界GPロードレース⑨・イギリス
  - ▼500CCモトクロス⑪・ベルギー
  - ▼125CCモトクロス⑨・西ドイツ
- 8月10日
  - ▼全日本ロードレース⑨・筑波
  - ▼世界GPロードレース⑩・スウェーデン
  - ▼500CCモトクロス⑫・ルクセンブルク
  - ▼125CCモトクロス⑩・フィンランド
- 8月14日
  - ▼全日本ロードレース⑩・北海道
  - ▼世界GPロードレース⑪・サン・マリノ
  - ▼250CCモトクロス⑫・スウェーデン
  - ▼125CCモトクロス⑪・アルゼンチン
- 8月31日
  - ▼全日本ロードレース⑪・SUGO
  - ▼125CCモトクロス⑬・ブラジル
  - ▼全日本カート東地域⑤・新東京

待たずに念願の、世界チャンピオンを決定した。  
また、ビモンドをはじめ、A・ニコルス(イギリス)、M・ファントン(イタリア)らによってYZ250は、シリーズ10戦までの20ヒートのうち、じつに14ヒートの優勝を記録、こちらも2GPを残して、ヤマハが4年ぶりのメーカーチャンピオンに輝いた。

## ■世界選手権ロードレースシリーズ マモラ／YZR500

### 今季初優勝で、ランキングも2位に浮上

激戦のつづく'86世界選手権ロードレースシリーズは、第6戦オランダGP、第7戦ベルギーと中盤の2戦

を終えて、いよいよ終盤戦に突入しようとしている。

6月28日、バン・ドレンテサーキ

ット(アツセン)で開かれたオランダGPでは、500CCクラスのランキングリーダー、YZR500のE・ローソンが予選最高タイムをマークして依然好調なところを見せたが、決勝レースの1周目でコースアウトして転倒リタイヤ。第2戦から続いていた連勝記録も4で終ってしまっ

## ロードレースのヨググイベント 相つぐ秋

報知新聞社とMFJ関東プロック協議会は、9月20日(予選)、21日(決勝)の両日、富士スピードウェイにおいて「スーパーズプリント'86、フジインターナショナル・ロードレース」を開催することを発表した。

これは500CC、250CCの2クラス、いずれも2ヒート制で、R・マモラ、M・ポールドウイン

らのGPライダーに平、木下、水谷らの国内トップライダーの参加が予定されている。

これにより、9月14日の日本グランプリロードレース(スズカ)から10月5日の第14回TBCビッグロードレース(SUGO)まで、この秋の日本列島は、ロードレースのビッグイベントが連続する、エキサイティングな季節となる。



雨のスパ・フランコルシャンを独走、今シーズン初勝利をチームラッキーストライク・ロバーツにもたらしたマモラ/YZR 500

てW・ガードナーとマモラ、マッケルナが好レースを展開、とくにマモラは先頭を行くガードナーにコンマ7秒差と迫ったが、わずかにおよびず結局ガードナー、マモラ、ポールドウィン、マッケルナ、サロンの順位となった。

しかし、好調の波に乗り始めたマモラは、7月6日のベルギーGP、スパ・フランコルシャンでついにスタート・ツー・フィニッシュの完勝をやつてのけ今季初優勝。ランキングでもガードナーを抜いて2位に浮上し、ロートンに10ポイント差と迫まっている。なお、この第7戦ベルギーGPでは、初優勝のマモラについでロートン、サロンとYZR勢が上位3位を独占し、人気を集めた。

### 復調の平、連続入賞!

一方500ccクラス以上の激戦がつづく250ccクラスでは、オラン

ダGPでYZR250を駆るC・ラバードが、ポール・ツー・フィニッシュで今季4回目の優勝。つづくベルギーGPでもラバードは、ポールドウィンからのスタートとなったが、1周目の最終コーナーで転倒リタイヤしてしまつた。しかし、ポイント争いではラバードが依然首位、2位のシティー・ボンズ(スペイン・ホンダ)に10点の差をつけている。さて、このクラス注目の平忠彦はオランダGPでは同じYZR250のラバード、ウイマーについて予選3位。決勝でも好スタートを切つたものの1周目で16位に後退。しかしその後、4周目12位、6周目10位、10周目7位、12周目5位とみことな追い上げて結局ウイマーについて6位に入賞。つづくベルギーでも1周目の17位から追い上げて9位でゴール、今季3回目のランキング・ポイントを上げた。

## ■全日本選手権ロードレースシリーズ 片山信二/YZR250 超激戦区 A250で ポール・ツー・フィニッシュ

今シーズンの全日本選手権ロードレースで、一番の盛り上がりを見せているクラスといえは国際A級250ccクラス。6月22日の第8戦筑波大会でも決勝グリッド32台に対し予選出走台数62、ポールからグリッド32番手までのタイム差は僅か1秒81という接戦で、観衆2万9千の注目を一手に集めていた。

さてこのレース、予選で59秒88のレコードを樹立してポールを獲得したYZR250の片山信二選手(チームYDS)は、決勝でも好スタートをきってトップを快走。2番手にはNSRの清水雅広選手(テクニカルスポート)がつづき2人がレースをリード。しかし清水は17周目にマシントラブルで戦線を離脱。結局、片山が25周を独走し、国際A級

異格後の初優勝を果たした。これで、長谷川嘉久選手(フライングドルフィン)と片山選手のYZRコンビが、それぞれ75、71ポイントでランキング1、2位をキープ。ふたりの、初タイトル獲得へ向けての残り3戦での健闘に話題が集っている。

またこの日のジュニアF3クラスでは、筑波初登場のFZR400を駆る町井邦生選手とTZR250を駆る佐藤光昭選手のSP忠男レーシング同志のバトルが会場を沸かせたが、結局終盤スパートした町井選手が優勝。これで町井選手はこのクラス5連勝。FZR400は第6戦SUGO大会でデビュー以来、スズカツクバと初コースを連続して制覇している。



59秒88—500ccクラスのトップレベルに迫るタイムをマークしてポールを獲得。決勝でも安定した速さで優勝を飾つた片山信二とYZR250

## ■全日本選手権モトクロスシリーズ 激走つづく、光安 YZM250

国際A級250ccクラスの好バトルで人気を高めている全日本選手権モトクロスは、7月5-6日の北海道大会で第6戦を迎えた。

ルスト高原カントリーランドの大きなマウンテンコース1周・6キロに17000人の観衆を集めて行なわれたこの大会、メインレースの国際A級250ccではYZM250の光安鉄美が、またもS・マーチン、東福寺保雄と大激戦を展開。3位に終わった第1ヒートについて、第2ヒートでは残り1周までマーチンと



せりあつたものの第5コーナーで転倒、結局2位となった。この結果シリーズポイントでも光安は、トップ東福寺に1点差の2位、タイトル奮還へいよいよ燃えている。

## ■全日本選手権トライアルシリーズ 伊藤敦志/TY250R 今季2勝目で首位に肉迫!

TY250Rの伊藤敦志が、今季2勝目をマーク、シリーズランキングでもトップの山本昌也に1点差と迫まり話題を呼んでいる。

シリーズ第4戦は、6月29日、広島県の野呂山観光遊園地トライアル場で開催された中国大会。この日は、梅雨のまつ最中、ドシャ降りの中で1周1kmのコースに13のセクションが設けられ、これを5時間30分、3ラップで競技が行なわれた。

この悪コンディションの中でも伊藤はひととき冷静なトライをつづけ、減点63、クリン17で2位の山本弘之に3点差をつけて優勝。伊藤の2勝目で、今シーズンの全日本トライアルの行方がが然おもしろくなってきた。



## ■全日本カート競技選手権シリーズ・西地域AIIクラス ヤマハ5連勝!

全日本カートの西地域・第5戦が7月5-6日の両日、岡山県の中山カートウェイで開催された。この日のAIIクラスでは、ヤマハRF11



フレームにKT1000AXエンジンを搭載した松倉輝明が優勝、今季2勝目をマークした。予選4番手からスタートした松倉は、快調なペースで先行するライバルを抜き去り、18周目の最終コーナーでトップに立つと以後はダントツの走り、28周を走り抜いたもの。この勝利で、ヤマハは西地域のAIIクラスで第1戦から5連勝、残る2戦が注目されている。



## 高まる話題の中で 8月こそ、エクセル拡販作戦を!

ヤマハとNTTとのタイアップによって展開していたエクセル新発売キャンペーン「エクセル・テレホンカードコンテスト」は、予定どおり7月21日(当日消印有効)をもって締切らせていただきました。

期間中は販売店みなさまのご協力によって当初予想を大きく上回る応募を集めることができました。誌上よりお礼申しあげます。

さて、こうしたキャンペーンの成果もあってエクセルは、6月1日の新発売以来全国的にきわめて順調な市場浸透をつづけています。ヤマハ本社に寄せられるエクセルお客さまカードをみて。

### SALES

- 男性約70%、女性30%のユーザー構成比。
- 10代から50代まで幅広い層に受け入れられ、ヤングアダルト層も確実に獲得している。
- ほとんどのエクセル・ユーザーが、以前から二輪の乗車経験を持ち、男性で64・6%、女性で83・8%の人が、いつも乗っていたという人で、購入形態区分に占める代替の割合は男性で約80%、女性で70%にもなっている。

— という結果が表われています。

ハイセンスなスタイリングと高度な性能：エクセルのたしかにつくりが、スクーターを熟知したお客さまたちにしつかりと理解され始めているといえるでしょう。

テレホンカードコンテストや活発なテレビCMなどでもりあがったエクセル認知度を、この夏一気に販売に結びつける、これこそこの夏のスクーター販売の最大のポイントとい

## サービス作業の効率アップに 省力化工具・機器をご利用ください



9月から全国一斉縦断ロードショーを開始する世界GP映画「ブライド・ワン」(詳しくは前頁参照)これに協力してヤマハではいま販売店のみなさまに特別鑑賞券の販売をおねがいしています。そしてこの販売に当っては店頭用「ブライド・ワン」プロモーションビデオも用意。同時にこの前売入場券をお求めのお客さまにプレミアムとして写真のような「FZR400イラストポスター」(A全判)のプレゼントも実施しています。

夏から秋へのスポーツバイク商戦に、お店でもどうぞGP映画「ブライド・ワン」と特別鑑賞券販売を有効にご活用ください。

### YES

## YESSの活動促進ツールのみなさまにご活用いただく 「YESS活動促進ツール」がそろいました

この8月よりスタッフ募集システムも一新して新たなスタートを切ったYESS。2年目を迎えますますます充実するYESSの活動を販売店のみなさまにも、さらに活発に展開していただくために豊富なYESS活動促進ツールを用意しました。みなさまのお店でもこれらツールをご活用のおうえ、スタッフの増員やさまざまなスポーツイベントなど、どうぞより活発なYESS活動をご展開ください。

「YESSスタッフ特典パンフレット」①  
ジェットツーリング、フェリーツーリング、バイク119番、バイクヒレッジ……などYESSならではの特典をお客さまのためにわかりやすく説明したパンフレットです。

「YESSカタログ・スタンド」②  
スタッフ特典パンフレットやスタッフ募集パンフレットを収納するカタログスタンド。お店のカウンターに必ずお備えください。

「YESSバナー(横巻)」③  
調にYESSロゴとシンボルマークを組合わせた横巻、YESSイベントの会場づくりに欠かせぬものです。

「YESSフラッグ」④  
ツーリングやイベントなどYESSスタッフがそろって行動する際のシンボルとなるYESSフラッグ。

「YESSのほり」⑤  
バナーやフラッグとセットで使用してさらに雰囲気をもりあげるYESSのほり。もちろん店頭に掲出してスタッフ募集活動やYESS活動PRにもご利用いただけます。

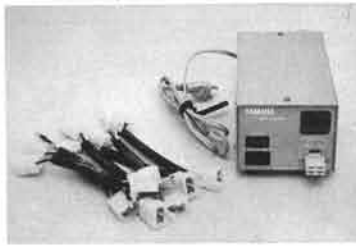
「YESSポロシャツ」⑥  
イベント会場にびったりのYESSポロシャツ。YESSショップのみなさまには、制服としてぜひ着用いただきたいもの。同時にYESSスタッフのみなさんにも、ご斡旋ください。

※YESS活動促進ツールについて詳しくは担当セールスにお問合わせください。

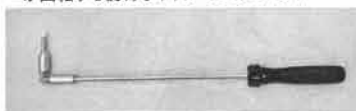


●このページは、ヤマハ発動機各課から販売店のみなさまへの業務連絡です。さらに詳しくは、担当のセールスマン、各特约店、販売会社の営業技術課(サービス)、普及課(セフティ/モーター/スポーツ)、部品営業課(パーツ)までお問合わせください。

販売店さんの必需品CDIユニットチェッカー



ハンドル部のツマミを回すと横向きのドライバーが回転する便利なキャブ・アングルドライバー



ヤマハでは販売店のみなさまのサービス業務の効率アップのために、さまざまな省力化工具・機器を斡旋していますが、そんな中で最近とくに好評いただいているのが、ここにご紹介するキャブ・アングルドライバーとCDIユニットチェッカーです。

キャブ・アングルドライバーはFZ系など4サイクル・マルチモデルのキャブレター調整が、狭まくり込んだ部分に手を入れることなく外部から簡単に行なえるようにしたもので、手元のツマミをまわすと先端に取付け

たドライバーが回転するという便利な工具です。

そして、CDIユニットチェッカーは、ご承知のとおりCDI点火方式モデルのCDIユニットの良否をす早く、簡単にチェックするもの。いまや販売店さんのサービス機器の必需品ともいえるものです。

この機会にお店にもどうぞ、これら省力化工具・機器をおさなえください。

▼キャブ・アングルドライバー 標準小売価格2300円

▼CDIユニットチェッカー(908990-03138) 標準小売価格62000円

■サービスマニュアルが完成しました

PW50とチャンプCJ80のサービスマニュアルが完成しました。お店のサービスマニュアルにどうぞ活用ください。

▼PW50 注文No.321113 品番36E-28197-00 価格1000円

▼チャンプCJ80追補版 注文No.32114品番2GM-28197-05 価格2000円

※この欄に関するお問合わせはもよりのヤマハ特約店、販売会社営業所のサービス課にどうぞ

## ヤマハ原付免許「自習用」視聴覚教材が勢ぞろいしました。ご活用ください!

きわめて効率的な原付免許学習システムとして定評を集めているヤマハ原付免許自習セットのうち、「ビデオ講座」と「自習用カセット」の改定版が完成しました。これは原付車の二段階右折など改正道交法の内容をもり込んだもので、これにより先にスタートしているレーザービジョン・LVSステディシステムとあわせて3種類の自習用視聴覚教材がそろったわけです。お客さまの好みや学習法にあわせて、これら自習用教材を使い分け原付免許の取得のお手伝いをより積極的にご展開ください。

〔50ccライセンスコース・ビデオ講座〕

実際の交通場面を中心に構成、短時間で交通のルールやマナーがマスターできるビデオ学習システム(VHS、βの両タイプ)

〔自習用カセット〕

マイペースで学習したいというお客さまのための「自習用カセット」。テキストの内容を親切、ていねいに解説して、「大変理解しやす



※ヤマハ原付免許・自習用視聴覚教材については詳しくは担当のセールスマンまたはもよりのヤマハ販売会社・普及課宛お問合わせください。

い」と好評です。

〔LVSステディシステム〕

レーザービジョンを使ったLVSステディシステムは、ゲーム感覚で楽しみながら学習できる、学科知識の理解も画面との応答でスピードアップ、自由な画面選択でくり返し学習も簡単……といったかかずかずの特徴を備えた自習システム。ファミコン世代のヤングにはまさにピッタリです。

## 8時間耐久レースのホットシーンも! 8月のヤマハ提供・テレビ番組

もうすっかりおなじみとなったヤマハ1社提供によるバイクとマリンスポーツの総合情報番組「ON AND OFF」、8月の放送予定は次のとおりです。

- 8月1日「ヨーロッパ・バイク」オートバイを集め博物館までつくってしまつたスイスのバイクフリーク、J・ヒルティ氏紹介
- 8月8日「ビッグ・フィッシング」カジキを追って太平洋のトロリーング
- 8月15日「鈴鹿4時間耐久オートバイレース」ノビスライターの祭典。4時間耐久の出場チームの奮闘ぶりをレポート
- 8月22日「鈴鹿8時間耐久オートバイレース」鈴鹿8時間耐久レースをビクトルルーの動きを中心に紹介
- 8月29日「ジュニアヨットスクール」葉山マリナーでのジュニアヨットスクール夏季合宿の様相

(静岡放送は、同内容で8月3日、10日、17

日、24日、31日の放送となります)

なお、この「ON AND OFF」は、テレビ東京、テレビ愛知、テレビ大阪、テレビせとうちの各局で毎週金曜日、午後11時30分から15分間、また静岡放送で毎週日曜日・午後5時15分より15分間放送されます。

一方、TBS系全国ネットで放送されているヤマハ提供番組「月曜ロードショー」、8月は「夏休みミステリー特集」として次の4本が放送されます。

- ▼8月4日「湯殿山麓呪い村」ミイラの呪いがいまよみがえる、永島敏行、永島映子主演の連続殺人ミステリー
- ▼8月11日「猫」恨み重なる人間を襲う猫の恐ろしさが話題を呼んだパニック・ホラー映画
- ▼8月18日「四谷怪談」岡田茉莉子がお岩に扮した大江戸怪談地獄絵図
- ▼8月25日「13日の金曜日」ホラー映画ファームの火付役となつた同名映画の第1作

## TMSSC会員になって、つま恋でのモータースポーツライフを!

静岡県掛川市のヤマハレクリエーション施設「つま恋」にオープンした国際級のレーシングカートコース、ここをベースにレーシングカートやミニバイクレースを楽しみたいという方がたを対象に、いまTMSSC(つま恋モータースポーツクラブ)の会員募集が行なわれています。

このTMSSC会員は、カート会員とミニバイク会員に分かれ、カート会員の場合はSL・JAFライセンス所持者、またミニバイク会員はMFJ競技ライセンス所持者はそれぞれTMSSCライセンス講習会が免除され、同コース走行に必要なTMSSCライセンスが発行されることになっています。

入会金はいずれも3000円、年会費6000円、カート会員は12才以上、ミニバイク会員は9才以上の方ならなたでも入会できます。

また、TMSSCカート&ミニバイク・ライセンス講習会も次の日程で開催されます。最高のコースで楽しく安全なモータースポーツ



を! お客さまにもどうぞTMSSC入会をおすすめください。

〔講習会日程〕8月9日(土)/24日(日)、9月13日(土)/28日(日)、10月11日(土)/26日(日)、11月8日(土)/24日(月)、12月6日(土)/21日(日)

※この欄のお問合わせは、TMSSC(つま恋モータースポーツクラブ)へどうぞ。☎05372(4)1111 内線321



# 無心で走った後の満足感を求めて モトクロスに打ち込む「チームピットイン」

●ピットイン・ワタナベ／渡辺秀孝社長（宮城県仙台市ひより台3-10）

国際A級をめざす本格ライダーも、体カづくりのサンデーライダーも、走る時は同じ「無心」になって思いっ切り走るだけ、というのが「チーム・ピットイン」の信条。暑さを吹っ飛ばし、大粒の汗を流しながらこの夏も、そろって大地と格闘中です。

## ●クラブをリードする 最古参ライダーの情熱

現役最古参ライダーとして東北のモトクロス界では知らぬ人はいないというほどの有名人。渡辺秀孝選手。その渡辺選手はモトクロスに寄せる熱い思いに共鳴した20人の仲間たちのクラブ、それが「チーム・ピットイン」。本拠地はもちろん渡辺選手のお店「ピットイン・ワタナベ」（仙台市、昭和53年創業）です。

3才の子ビツ子から小学生（1人）、中学生（2人）、高校生（2人）、大学生（1人）、社会人（13人）というのがメンバーの顔ぶれ。

活動の中心はなんといってもレースで、東北選手権モトクロスをはじめ、年2回東北で聞かれる全日本選手権レース、さらに地元でのSLモトクロスシリーズなど、年間15戦にのぼる出場計画が組まれています。そして、レースのない週末は、練習日。スポーツランドSUGOやお店から40分ほどのところにあるモトクロス場・森郷で、メンバーそろって練習に打ち込んでいます。

## ●お店ごと練習場へ、 レース場へ！

そして、レース場で、また練習場で、クラブ員たちのベースとなるのが、お店自慢の2トン積みトラックです。

というのも、クラブ員のマシンはすべてお店のサービスコーナーで整備し保管されているため、練習だ、レースだとなるとそのつど16台のマシンをガレージから積み込み一気に移動してしまうのです。その姿は「まるでお店が一緒になって移動しているようだ！」と東北のモトクロス仲間にもうらやましがられるほど。また、パドックを埋めたトランスポーター群の中でも、ひとときわかるのがこのチーム・ピットインのトラック、というのも渡辺社長のご自慢のひとつです。

ちなみに、クラブ員のマシン管理や運搬は、月2000円の会費で賄われており、この中には簡単なマシン整備代も含まれています。

## ●思いっ切り走った後の満足感を より多くの人たちに……

さてある日曜日の練習風景を見ると、この日の参加はメンバーの約半数。朝9時の集合で、トレーニングは、走って、休んでのくり返し。その後は10分プラス2周の模擬レース、もう実戦さながらの熱のこもった雰囲気です。

もちろん、モトクロス一途に打ち込んだ人、あくまでも趣味、スポーツとして



## 新システム用ツールが そろいました。

年度会員制から年間会員制へ、生まれかわったY.E.S.S.の会員システムとそれにもなう新しい手続き方法は、本誌7月号・22ページに詳しくご紹介しましたが、この新システムの採用にもなう新ツールがつぎのとおり完成しました。

これらツールを十分に活用され、お店でもどうぞより活発なY.E.S.S.活動をご展開ください。

### ① Y.E.S.S.スタッフ参加申込み書

加盟店さま控、住友海上火災保険控、ヤマハ販売会社控、営業所控の4枚つづりになっています。必要項目に記入洩れのないよう下記下敷きマニュアルを見本に正しくご記入ください。

### ② 下敷きマニュアル

申込み手続きを詳しく解説したマニュアル兼用下敷きです。

### ③ Y.E.S.S.ボックス

参加申込み書と下敷きマニュアルは、セットでこのボックスに保管。いつでも入会手続きができるようにしておきましょう。

### ④ 仮カード

本カードがお客さまの手もとに届くまでお店から発効していただくこの仮カードがY.E.S.S.スタッフカードとなります。

### ⑤ Y.E.S.S.イメージポスター

店頭やイベント会場に掲示してスタッフ募集にご活用いただく会員募集ポスター。(A4全判)

### ⑥ Y.E.S.S.スタッフ募集パンフレット

Y.E.S.S.のシステムや活動をわかりやすく説明した募集パンフです。(A4・3ツ折)



モトクロス歴21年、国際B級クラスで10年以上も走り、その間全日本選手権で6回の優勝経験を持つ渡辺社長

ゆったりとモトクロスを楽しみたい人、両方のタイプの人がいるのは「チーム・ビットイン」でも他のクラブ同様。しかし練習は、あくまで同じ、全員そろって行動するのがこのクラブの特徴です。「取組み方はちがっても、走っている時の気持ちは同じ、無心になって思いっきり走るだけでしよう。その満足感こそがモトクロスのダイゴ味、それをメンバー1人1人にしっかりとわかって欲しい。その楽しさを広げていきたいんです」と渡辺社長。それだけに――

「たとえ練習中にクラブ員が転倒しても心配なんてしません。モトクロスに転倒はつきものですからネ。無心になっていれば痛さなんてないハズ」と厳しい。こうして、レースやトレーニングの後のお店での話題は、もっぱらメンバーの転倒ぶりのこと。そしてこうしたクラブ員のエピソードはレースでの成績とともに店内に掲示され、一般のお客さまの間にも、しっかりと伝わって、モトクロス心情派ファンを増やしているのです。

# 100%バイクライフを楽しむ お客様またちの“バーバー”

モトハーバー・株鶴見 鶴見正徳社長  
 〒058-7514 愛知県江南市大字小折2番2号  
 TEL 05875(4)3222

“お客様の自発性”これが「モトハーバー」さんのご商売のキーワード。お客様  
 の自主性をうまく育て、お店はバイクライフを存分にエンジョイしていただくための  
 サポート役に徹しようというもの。まさに店名どおり、お客様にとって“バーバー”  
 (港)のようなお店です。

## ●はじめに、クラブありき

名古屋市中心部から北へ20キロ、名神高  
 速道路・小牧インターにほど近く、国道41号  
 線から3キロほど西に入った江南市小折に、  
 この4月にオープンしたばかりの「モトハー  
 バー・株鶴見」さんは、きわめてユニークな  
 経過から誕生した二輪販売店さんです。

というのも、このお店の前身は「モトラバ  
 ー」という名前のクラブ。株鶴見さんの自転  
 車組立工場をホームベースとしてモトクロス  
 を楽しんでいたクラブ。そのリーダーとしてい  
 ろいろと面倒をみていた株鶴見社長の活動がい  
 つしか二輪販売にまで発展、件の自転車組立  
 工場の一部が小さいなバイクショップに変  
 身してしまっただけです。

それだけに株鶴見社長のご商売に対する姿勢  
 は明快。それは、自主性を持って積極的にバイ  
 クライフをエンジョイしようとするお客様ま  
 を育成し、彼らの行動を100%バックアッ  
 プしよう、というものです。

「お客様にはまず、バイクを楽しむにはあ  
 る程度の危険が伴うこと、そのためにも安全  
 運転を心がけ、自分の全行動に責任を取るよ  
 うに話をします。同時にバイクは高価なモノ  
 ですから、楽しむなら徹底してやり中途半端  
 ならやらない方がいい、という店の考えを伝  
 えるようにしています。」

この時一番強調するのが、お客様の自主  
 性ですね。最近のスポーツユーザーを見てい  
 て思うのは自主性が欠けていること。バイク  
 に関する商品は商品から遊びまで完全に販売  
 店におんぶにタッコという感じ。もちろん、  
 うちの店でもいろいろなイベントを通じてお

客さんに遊びの提供はしていますが、そんな  
 時にも「バイクの楽しさはユーザーが自分た  
 ちで創りだすもの」ということを強調してい  
 るんです。

もちろん前出のクラブ「モトラバー」のメ  
 ンバー・58名は、そんな株鶴見社長の考えを完  
 全に理解し、実践している人たち。オンにオ  
 フに、ツーリングに、レースにと活発な活動  
 をくりひろげるみなさんは、同時に最高のオ  
 ビニオンリーダーとなつて「モトハーバー」  
 さんのご商売を支えているのです。



スタート間もないご商売を独自のポリシーで引っ張る株鶴見正徳社長と  
 良きパートナーとしてそれを支える奥さま・緑さん

## ●徹底して楽しむお客様のための 徹底したサポート態勢

では、そんなお客様に対して「モトハー  
 バー」さんでは、どんなバックアップ態勢を  
 敷いているのでしょうか。

「徹底的にバイクライフをエンジョイしな  
 い、といっているのですから店としても中途  
 半端なことではできませんしね(笑)お客様ま  
 の負担軽減を最大限に考えています」  
 というわけで、まず年間6千円の費用で自  
 由に使える洗車機とレンタル・ロッカーがあ  
 ります。とくに32個用意されたロッカーは、  
 現在25名のお客様が使用中。中にはウェア  
 やブーツなどのライディング・ギヤとともに  
 お客様が所有のオイルや工具なども並んでい  
 ます。これは、27坪(89㎡)と広いサービ  
 ルームをお客様に無料開放していることと  
 も関連したことです。

「メカニズムにも興味を持ち、メンテナン  
 スも覚えてもらって、バイクを大切に扱って  
 らおうとお客様にサービスルームを開放し  
 たり、バイク購入時にあわせて工具なども購  
 入していただくようにしているんです。もち  
 ろんスケアパーツやオイルなどの消耗品、特  
 殊な機材の使用は有料ですが、このサービ  
 ルームでお客様ご自身がやる整備は無料。  
 お客様にも好評で、中には夜中まで熱中し  
 ている人もいますよ(笑)」

また最近では、1人で何台ものバイクを所  
 有するお客様も増えていますが、そんなお  
 客さまのために「モトラバー」さんでは年間  
 1万5千円でバイクの保管システムも実施し  
 ています。またこれとあわせて、1トン半ト  
 ラックの貸出しも行なわれ、レース場へのト  
 ランスポーターとして使用するお客様またち  
 に喜ばれています。

## ●着実に広がる 「メンテナンス」の輪

「お客様に自発的に楽しんでいただく。こ  
 とをモットーとした「モトハーバー」さんでも



いまの季節の人気商品、ヤマハラライダーTシャツも豊富に展示



ショールームよりも1段高くして変化をもたせた用品コーナー

オン、オフのスポーツモデルが並ぶショールームの全景

これがレンタル・ロッカーの一隅。お客さまのバイクに対する熱中度がうかがえる



▲広びろとしたサービス工場は、お客さまにも無料開放されている。ドレス・テレフォン(左手前)も導入して部品の手配も迅速・正確に

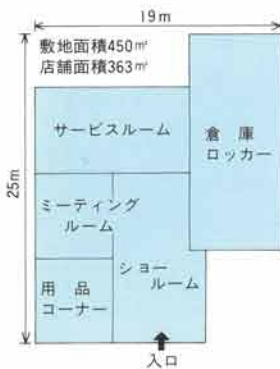


今年5月、木曾の日和田高原で開かれたヤマハ中部㈱主催のYESSバイクレレッジに参加した「モトラバー」さんのお客さまの姿をみても、お店がお客さまのすべての面倒をみるのではなく、自発的にバイクライフを拡げているお客さまをしっかりとサポートするという、鶴見社長の方針は、確実にお客さまの間に浸透しはじめています。

「考えてみれば、一番大切なのはコミュニケーションのようですね。店とお客さま、お客さま同志、地域の人たちと店やお客さま……とすべてはコミュニケーションが第一」と語る鶴見社長。

また地域の人びととのコミュニケーションづくりは、お店の前の120坪(396㎡)の土地にバイシクル・トライアルコースを作り地元の小中学生に無料開放しようというもの。もちろんこれは、バイクに対する、ライダーに対する地域の人びとの理解を深め、地域にしっかりと根ざしたお店としてご商売を発展させていこうという鶴見社長の大きな狙いが込められたものです。

「店には、お客さまの運転免許証のコピーの下に乗っているバイクやお客さまの自己紹介などを記入したお客さまノートが置いてあります。これで普段は顔をあわせる機会の少ないお客さま同志の交流を促進しています。また店の中にも13・5坪(44㎡)のコミュニケーション・ルームを設けて自由にビデオを見たり、お客さま同志の交流を深めてもらうようにもしています。」



# ヤマハ・ニュー・ヘルメット ラインアップ

原付ユーザーのヘルメット着用、お店のお客さまは徹底されていますか。店頭指導の機会に、どうぞ新しいヤマハヘルメットもあわせておすすめください。7月から、スクーターユーザー向けに新開発したベーシックなジェット型「YJ-10」とレーシーなフルフェイスタイプ「GEORAMA-RS2、RS3」が新登場しています。

## GEORAMA-RSシリーズ 勢ぞろい!

ヤマハのレーシースポーツモデルに合わせて開発した高性能フルフェイス・ヘルメットGEORAMA-RSに新たに、RS-2、RS-3の2タイプが登場しました。

“マルボロ・ヤマハ”イメージのRS-2、“ソノート・ヤマハ”イメージのRS-3のカラーリング、グラフィック以外は、今春から登場して好評のRS-1と共通です。

■特徴：①段差帽体、曲面シールド、埋込み式エアインタークなど徹底したエアロダイナミクス設計②通気調整の可能な開閉式エアインターク③5段階クイックオープン式のハードコーティング・シールド④吸汗性、速乾性にすぐれた特殊内装生地（マーバス）⑤FRPにケブラーをプラスした独自のヤマハアドバンスコンポジットシステム

■規格：JIS・C種、MFJ公認、S・SG認定

■サイズ：M、L

■標準小売価格：¥29,800



GEORAMA-RS-2



GEORAMA-RS-3

GEORAMA-RS-1



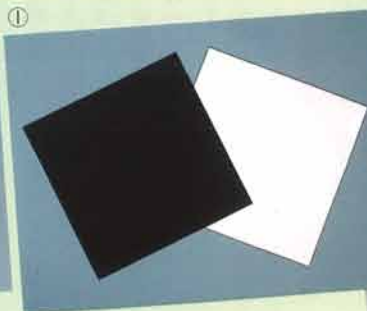
## スクーター用ジェット・ヘルメット YJ-10 新発売!

新発売のYJ-10は、スクーターユーザー向けに開発したベーシックなジェット型ヘルメット。高度な機能性とすぐれたコストパフォーマンスを、どうぞ幅広いスクーターのお客さまにおすすめください。

■特徴：①手軽なジェットタイプ、FRP成型品、JIS-B種規格②汗やムレの不快感を押える肌ざわりのよい起毛生地内装③使いやすいワンタッチあごひも

■サイズ：S (55~56cm) M (57~58cm) L (59~60cm) XL (61~62cm) ■カラー：ホワイト、レッド、ブラック

■標準小売価格：¥9,900



## お客さまの遊びごころをひき立てる エンブレム・ステッカー



レーシースポーツモデルにゼッケンナンバーを貼ったり、好みのネームやパターンが簡単に入れられるエンブレム・ステッカーです。素材は、内外のレースで使用されているバスキアル。粘着シートになっていますので、裏紙をはがせば、簡単に貼れます。

■定価：①シート各¥1,200(サイズ30×30cm) ②ナンバー別各¥200(高さ12cm)

■カラー：白/黒

# 人気のファラウエーブルーモデルとの セット販売をおすすめください ソノートヤマハ/ウェア&グッズ

ロードレースGP500ccクラスのクリスチャン・サロンや86年250ccモトクロスの世界チャンピオンを決めたジャッキー・ピモンドらの活躍で日本にもファンの多いフランス・ソノート・ヤマハチーム。そして、このチームのイメージカラー・ファラウエーブルーは、YSR50で、TZR250でとくに高い人気を集め、7月下旬からは話題のFZR400にもファラウエーブルーが登場しています。

こうした中でヤマハでは、このファラウエーブルーを基調とした「ソノート・ヤマハ」と共通イメージの「ソノートヤマハ/ウェア&グッズ」を多数開発し、この夏から全国の販売店さまにお届けしています。

どうぞこの機会にお店でも、ファラウエーブルーモデルと「ソノートヤマハ/ウェア&グッズ」のセット販売を積極的に展開ください。

■YL-330 レーシングスーツ  
¥170,000



■ソノートヤマハトレーナー  
¥6,200



■ソノートヤマハTシャツ  
¥2,900

■YL526  
レーシンググローブ  
¥9,800



■YL615  
レーシングブーツ  
¥30,000



## ●うちの用品コーナー

『経済的にも余裕を持ってバイクライフをエンジョイしようという24-25才のヤングアダルト層をメインターゲットにした店づくりを進めている』とおっしゃるのが、ここに紹介する「YSP高槻」富永茂寿店長（大阪府高槻市）です。

その具体的な方法は、100坪のショールームをオフロード、テイスティ、ピュアスポーツ、ライトスポーツ、レディースの各ゾーンに分け、バイク本体と豊富な用品を組合わせて徹底したバイクライフ演出を展開していること。

オープン2カ月足らずで、このハイセンスなショールームは、はやくもお客さまの評判を呼んでいます。



工事現場用の鉄パイプとジョイントをクロームメッキ、それに足場用スチールネットを組合わせた展示台が、各コーナーで使われている。



オフロードコーナーとはガラリと雰囲気の変ったテイスティコーナー

■ソノートヤマハ・バース  
¥2,400



■ソノートヤマハ・ウエストバッグ  
¥3,200



■ソノートヤマハ  
アームポーチ  
¥1,800



■ソノートヤマハ  
キャップ  
¥2,000



■RY-139ジャケット  
¥26,000



■ソノートヤマハ・ステッカー  
¥600

■RY-134 フルゾン  
¥18,000

